

291.5

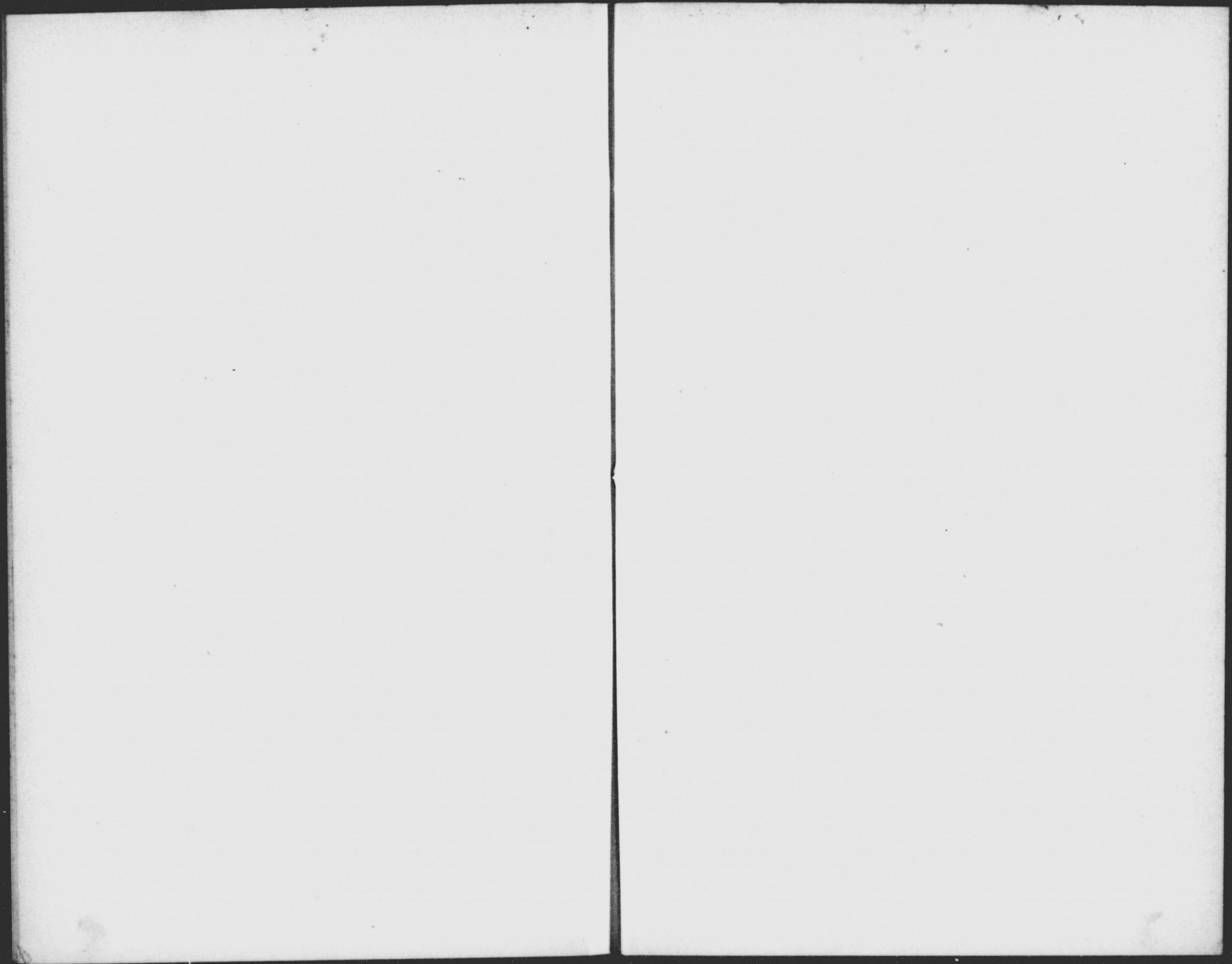
4

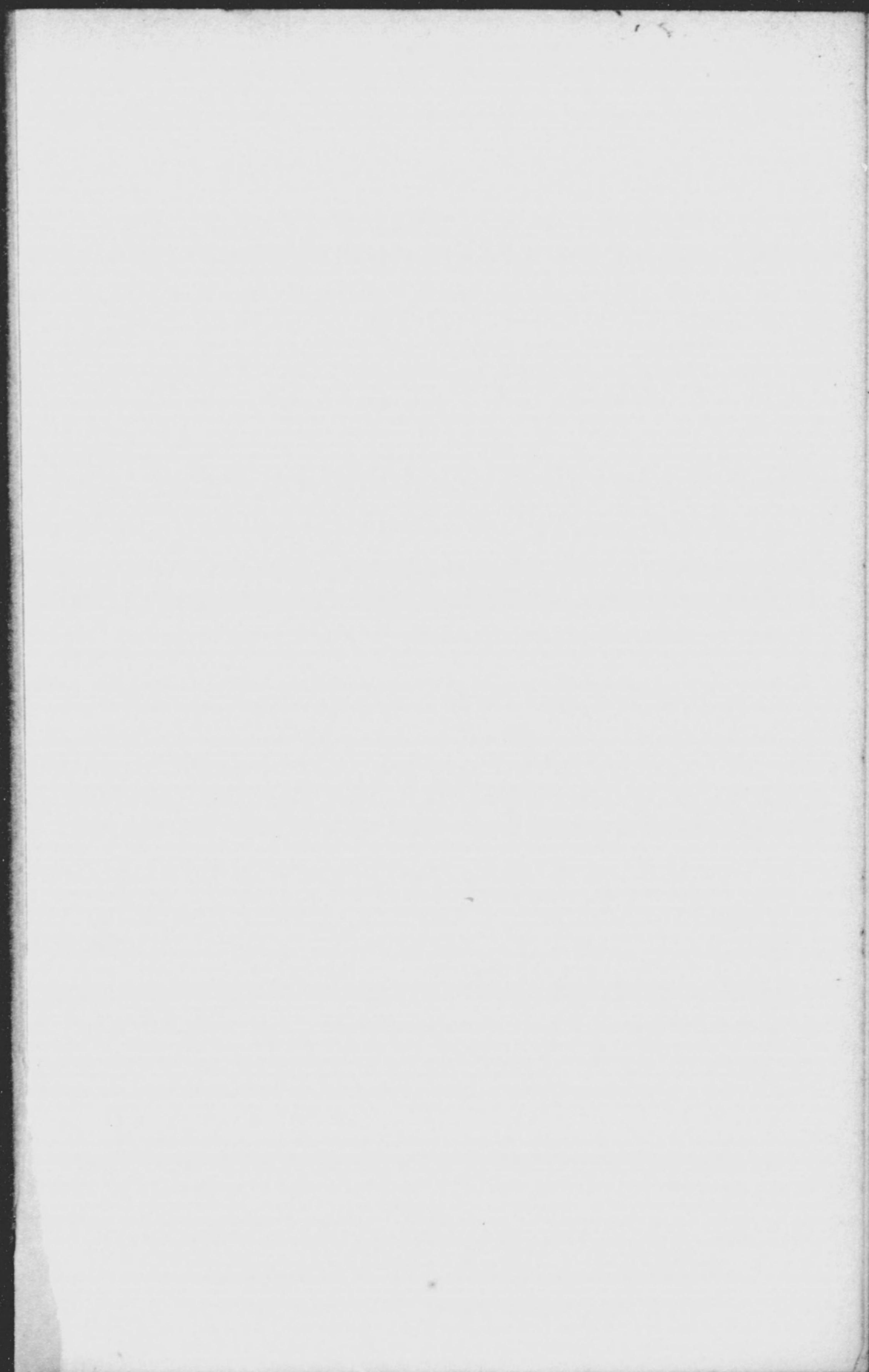
東京高等蠶絲學校一覽

自昭和八年
至昭和九年

東京高等蠶絲學校一覽

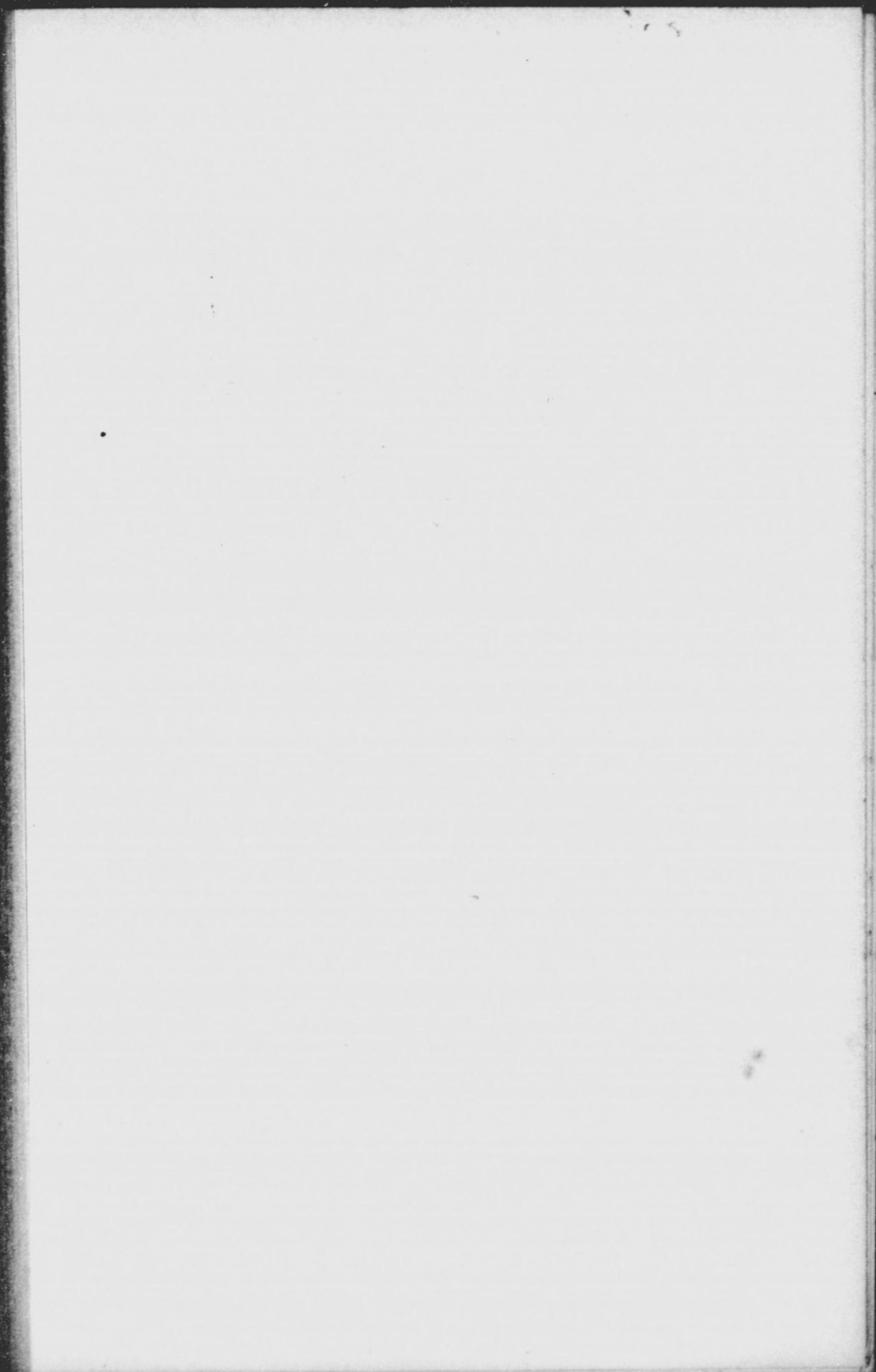
自昭和八年
至昭和九年





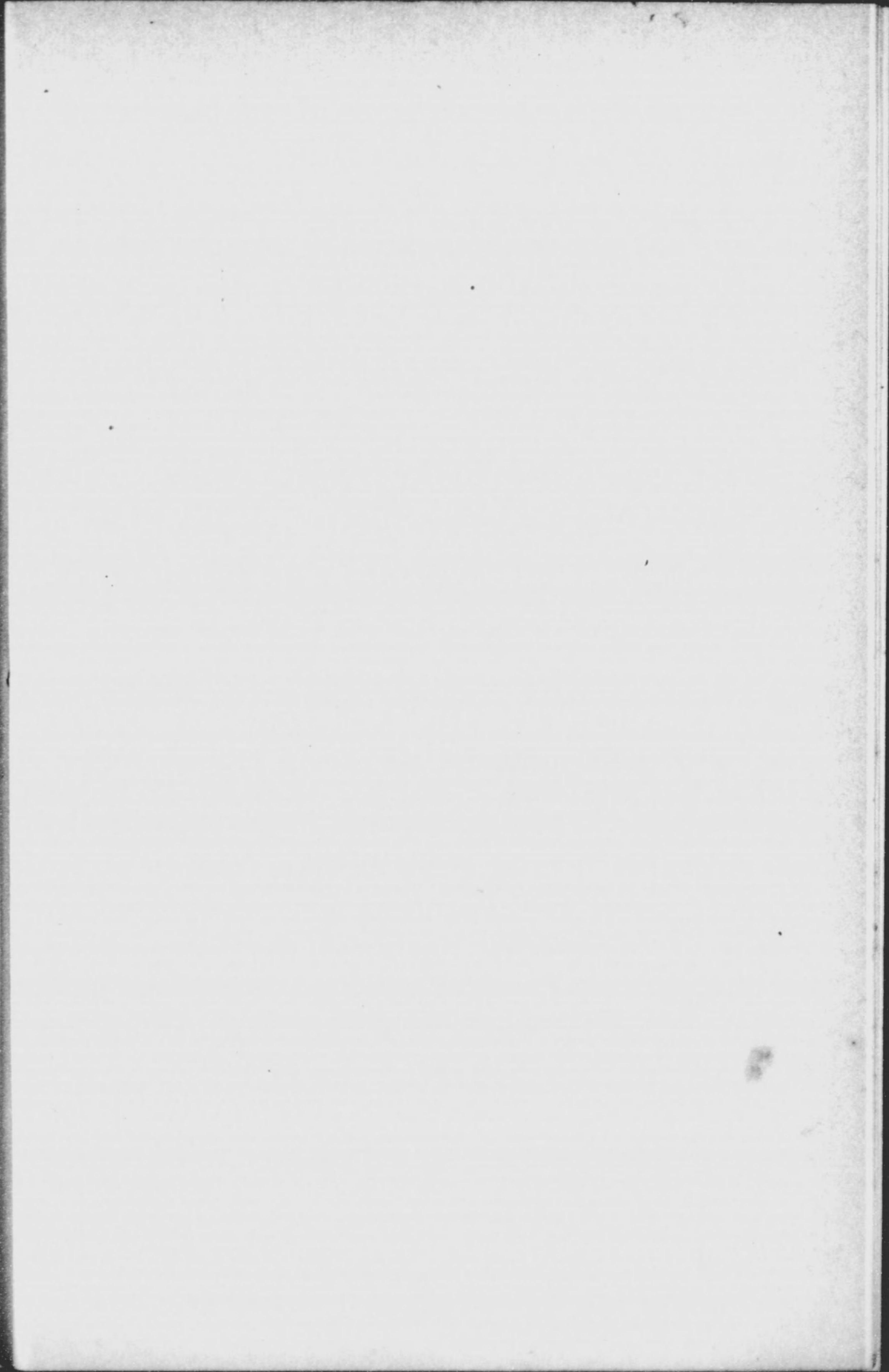


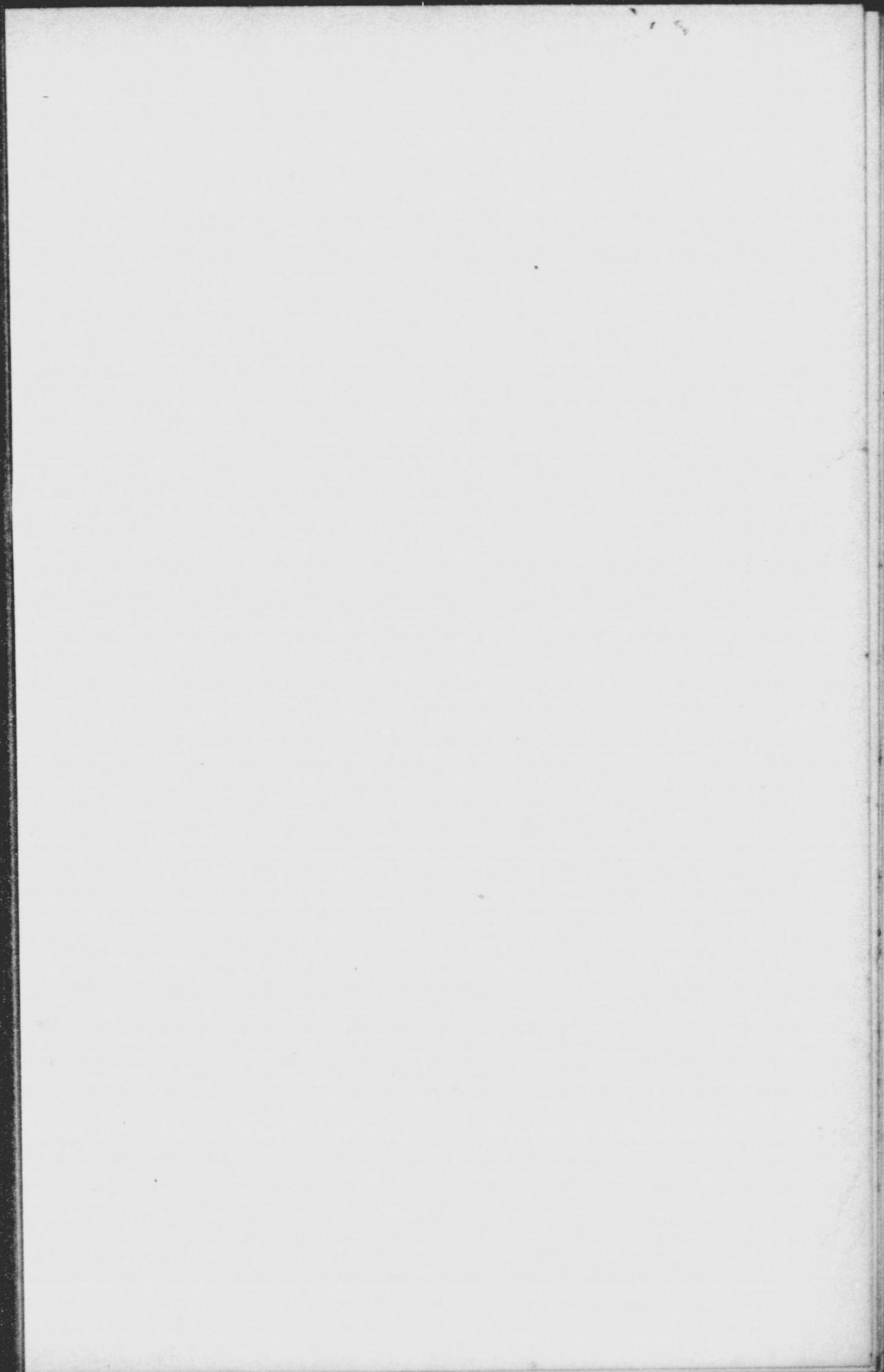
東京高等學堂正門





關 玄 面 正 校 本







本 校 全 景

東京高等蠶絲學校一覽

目次

第一	沿革	一
第二	行啓及台臨	六
第三	學年曆	九
第四	法	一一
一	專門學校令(抄)	一一
二	實業學校令(抄)	一一
三	文部省直轄諸學校官制(抄)	一一
四	文部省直轄諸學校專任職員定員令(抄)	一五
五	專門學校入學者檢定期程(抄)	一五
六	入學試驗無効ニ關スル件	一八
七	文部省直轄學校外國人特別入學規程	一八
八	東京高等蠶絲學校規程	一九
九	本校卒業者並入學者ニ關スル認定	二〇



發行所寄贈本

第五 規 則

一 東京高等蠶絲學校規則	二一
第一章 總 則	二一
第二章 學科目及其ノ程度	二一
第三章 學年、學期及休業日	三一
第四章 入學、在學、退學及懲戒	三二
第五章 修業及卒業	三六
第六章 特 待 生	三六
第七章 入學檢定手数料、授業料及實習實驗費	三七
第八章 研 究 生	三九
第九章 選 科 生	三九
第十章 寄 宿 舍	四〇
二 養蠶實科規程	四三
第一章 總 則	四三
第二章 學科目及其ノ程度	四三
第三章 入學及在學	四五

三

第四章 入學檢定手数料及授業料	四七
東京高等蠶絲學校製絲教婦科規程	四八
第一章 總 則	四八
第二章 學科目及其ノ程度	四九
第三章 入學及在學	五〇
第四章 授 業 料	五二

第六

諸 規 程	五六
一 本校處務規程	五六
第一章 校務分掌	五六
第二章 職員服務	六三
第三章 會 議	六四
第四章 文書ノ處理	六五
二 成績考查規程	六六
三 授業料及實習實驗費ニ關スル細則	六八
四 選科生細則	六九
五 外國人特別入學細則	七〇

六	學生、生徒心得	七〇
七	學生、生徒服制	七二
八	校旗規程	七八
九	級長規程	七九
十	修學旅行規程	七九
十一	寄宿料徵收規程	八〇
十二	寄宿舍規定	八一
十三	寄宿舍細則	八二
十四	學生、生徒通學規程	八四
十五	圖書取扱規程	八五
十六	圖書借覽規程	八六
第七	職員	八八
第八	學生、生徒	九六
一	養蠶學科	九六
二	栽桑學科	九八
三	製絲學科	九九

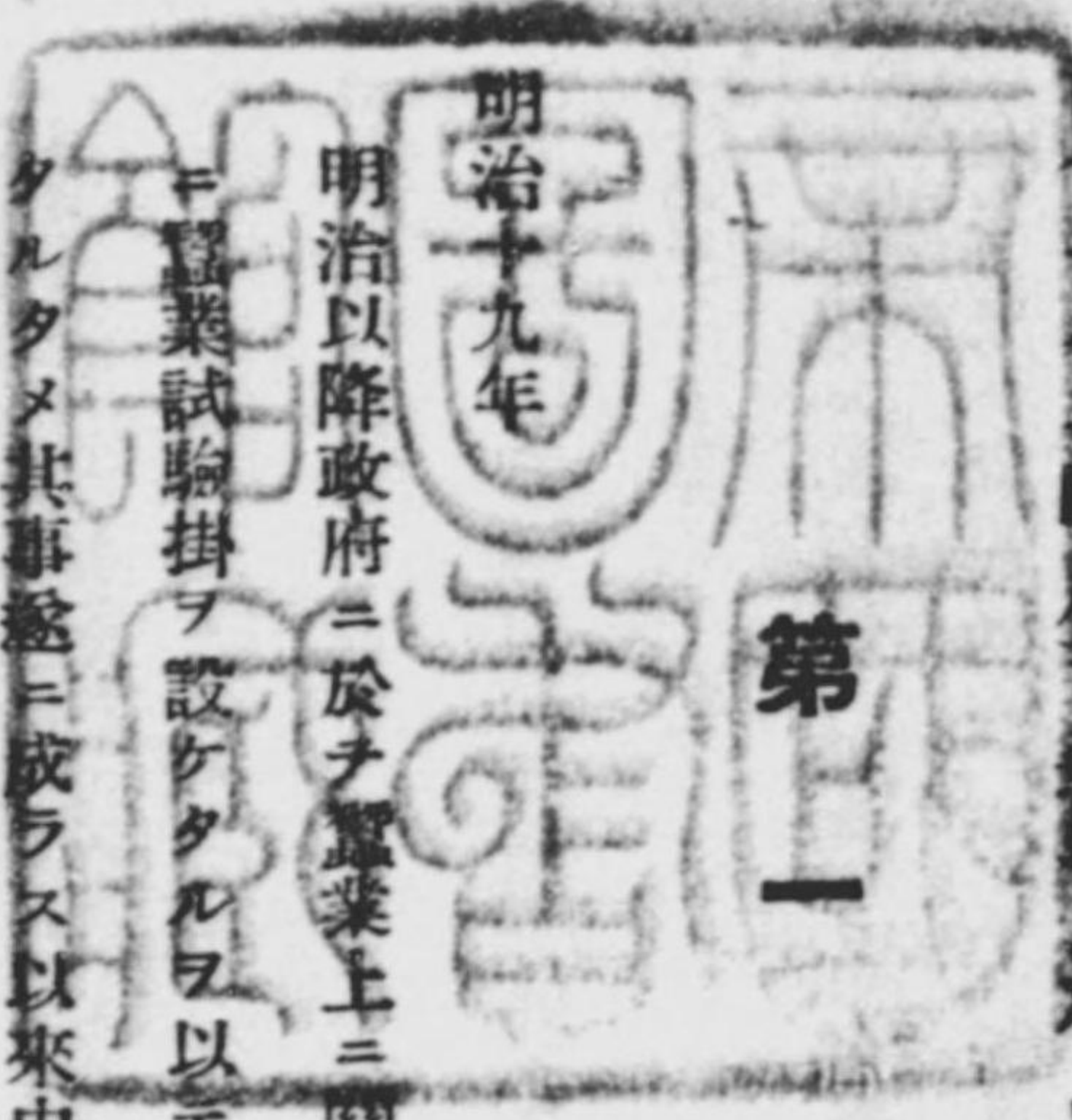
四	製絲學科選科	一〇一
五	研究生	一〇二
六	養蠶實科	一〇二
七	製絲教婦科	一〇三
第九	卒業生	一〇四
第十	土地、建物	一一一
第十一	附錄	一一二
	西ヶ原蠶友會會則	一一二
	西ヶ原女子蠶友會會則	一一六

東京高等蠶絲學校一覽 目次終

2915-4

東京高等蠶絲學校一覽

第一 沿革



明治十九年
 明治以降政府ニ於テ蠶業上ニ關スル試験及傳習ノ事業ヲ經營セルハ明治七年三月内務省勸業寮所轄内藤新宿試験所内
 蠶業試験場ヲ設ケタルヲ以テ嚙矢トス、尋テ蠶事學校設置ノ計畫アリシモ同十二年五月ニ至リ該試験場廢止セラレ
 タルヲ其事業ニ成ラス以來中央政府ハ蠶絲業ニ關スル試験傳習ノ事業ヲ中絶スルニ至レリ然ルニ曾テ伊佛諸邦ノ蠶
 業ニ害毒ヲ逞フセル微粒子病ハ當時本邦ニ於テモ亦其慘禍ヲ被ラントスルノ兆アルヲ發見シタルニ依リ農商務省ハ之
 レカ撲滅豫防ノ方法ヲ講究スルノ必要ヲ認メ明治十七年四月東京府麹町區内山下町ニ蠶病試験場ヲ設ケ微粒子病ニ關
 スル各種ノ試験ニ着手セリ右試験成績ニ依リ本邦養蠶ノ微粒子病ノ爲メ收穫ヲ減殺セラル、コト頗ル夥多ナルヲ知レ
 ルノ結果此年(明治十九年)九月ヲ以テ蠶種検査規則ノ發布ヲ見ルニ至レリ而シテ之レカ検査員養成ノ必要ヲ生シ同
 十月二十四日前記蠶病試験場ヲ東京府下北豊島郡西ヶ原ニ移シ該検査法ノ傳習ヲ開始シ傍ラ蠶業ニ關スル一般學術ノ
 傳習ヲ行ヒ尙養蠶上一般ノ學理及實地ノ試験研究ヲ行フコト、セリ之レ即チ本校ノ起源ナリトス

明治二十年

此年四月名ヲ蠶業試験場ト改稱セリ

沿革

明治二十三年

此年傳習ノ程度ヲ高メ學期ヲ延長シ専ラ地方養蠶教師又ハ巡回教師タルヘキモノヲ養成セリ

明治二十四年

此年三月農務局假試驗場蠶事部ト改稱セリ

明治二十六年

此年四月舊ニ復シテ蠶業試驗場ト稱セリ

明治二十九年

此年三月十八日蠶業講習所官制發布セラル茲ニ於テ前ノ蠶業試驗場ヲ改メテ蠶業講習所トナシ大ニ其規模ヲ擴張シ設備ヲ整ヘ且更ニ巡回講話、蠶種配布、質問應答等ノ業務ヲ新設シ以テ直接當業者ヲ指導裨益スルノ方法ヲ講シ又傳習ハ其程度ヲ高メ本科(二ヶ年修了)別科(六ヶ月修了)ノ二トシ且ツ別ニ研究科ヲ設ケタリ

明治三十二年

此年四月京都府下ニ同程度ノ蠶業講習所設置サレ本校ハ同年六月ヨリ東京蠶業講習所ト改稱セリ

明治三十五年

此年更ニ其規模ヲ擴張シ製絲業ニ關スル種々ノ試驗研究ヲ行フト共ニ斯業指導或ハ經營ノ任ニ當ル者ヲ養成スルノ目的ヲ以テ講習規程ヲ改正シ新クニ製絲ノ講習科(男生本科、女生本科及女生別科)ヲ特設シ而シテ從來ノ講習科ハ之ヲ養蠶講習科ニ改メタリ

明治三十八年

此年五月養蠶部別科ヲ廢シ本科男生(養蠶製絲ノ二科共)ノ講習程度ヲ高メ中學校卒業程度ヲ以テ入學資格トシ其修業年限ヲ三ヶ年ニ延長シ且徵兵令第十三條及第二十三條ニ依リ認定セラレタリ

明治四十二年

此年三月又別ニ夏秋蠶部ノ一部ヲ新設シ之ヲ長野縣松本市ニ置キ専ラ夏秋蠶ニ關スル試驗研究ニ從事スルコト、ナセリ

明治四十五年(大正元年)

農商務省ハ原蠶種製造所ヲ設立シ原蠶種ノ製造及蠶絲業ニ關スル試驗及調査ヲ行フコト、ナリ隨テ夏秋蠶部並ニ試驗部ノ事業ハ原蠶種製造所ニ移屬シ本校ハ専ラ生徒教養ノ任ニ當リ兼テ斯業ニ關スル研究ヲ行フコト、ナリタルヲ以テ此年四月本校ハ更ニ其組織ヲ變更シ同時ニ講習ニ關スル諸規程ヲ改善シ學科目ノ改廢並ニ學年學期等ノ變更ヲ行ヒタリ

大正二年

此年六月十三日文部省所管ニ移ル

大正三年

此年四月一日名ヲ東京高等蠶絲學校ト改稱シ同時ニ養蠶科、製絲科及製絲教養養成科ノ三科トシ且ツ學科目ノ改廢ヲ行ヒタリ

大正八年

此年五月規則ヲ改正シ養蠶科ヲ第一部第二部ノ兩部ニ分チ九月ヨリ之ヲ實施セリ
又別ニ養蠶實科(一ヶ年修了)ヲ設ケ次年度ヨリ實施スルコト、ナレリ

大正十二年

此年十月規則ヲ改正シ本科學科ヲ養蠶學科、栽桑學科、製絲學科ト改メ且ツ學科目ノ改廢ヲ行ヒ同時ニ無試驗檢定入
學志願者ノ資格ヲ中學校出身者ニ限定セス實業學校出身者ヲモ同等ニ取扱フコトニ改メタリ

大正十四年

此年五月本科ニ體操ヲ課シ又養蠶實科入學志願者ノ資格ヲ農業學校卒業以上ト改メタリ

昭和二年

此年一月寄宿料徴收規程ヲ改正シ又六月ニ於テ養蠶學科並ニ栽桑學科ノ學科目改正ヲ行ヒタル外十二月ニ於テハ本科
ノ入學檢定、入學試驗學科目及ヒ入學手續ニ關スル條項中一部ヲ改正シ且養蠶實科規程ノ一部ヲモ改正セリ

昭和三年

此年五月本科規則ノ一部ヲ改正シ又十一月ニ於テ製絲教養成科入學志願者ノ資格ヲ高等女學校卒業者ヲ主トスルコ
トニ改メタリ

昭和四年

此年三月本科並ニ養蠶實科ノ授業料改正ニ伴ヒ該規則ノ一部ヲ改メタル外十一月ニ於テハ製絲學科ノ學科目改正ヲ行

ヒタリ

昭和八年

此年一月本科規則中學科課程ノ改正ヲ行ヒ又從來ノ三學期制ヲ二學期制ニ改メ授業時數ヲ増加シタル外養蠶實科規程
中一部ヲ改正シ製絲教養成科ヲ製絲教婦科ト改メタリ

以上ノ外明治十九年蠶種檢査法發布ノ當時檢査員ノ不足ヲ補フ爲メ蠶種檢査法檢定試驗ノ法ヲ設ケ合格者ニ檢定書ヲ
付與セリ又明治三十年前後ノ交ニ及ヒテハ本邦ノ蠶業特ニ夏秋蠶業ノ進歩發達極メテ急速ナルニ隨ヒ蠶病蔓延ノ弊漸
ク多ク消毒法普及ノ必要甚ク切ナルヲ認メ此等指導獎勵ノ任ニ當ルヘキ者ヲ養成スル目的ヲ以テ明治三十四年ヨリ三
十六年ニ至ル三ヶ年間毎年一回各府縣ヨリ講習生五十名宛ヲ募集シ蠶病消毒講習ヲ開キ同法ニ關スル學理、實地ノ講
習ヲナセリ而シテ蠶病消毒ノ普及ハ「フォルマリン」ノ需用ヲ大ニ増加セルモ之レカ良否ノ識別困難ニシテ往々不良
品ノ爲メ消毒效果ヲ完クスルコト能ハサルモノアルヲ認メ明治三十九年及四十年ニ於テ二回短期講習ヲ開始シ「フォ
ルマリン」檢定法ノ講習ヲ行ヒテ技術者ヲ養成セリ又地方製絲場ニ於ケル監督指導者ニ對シ學理ノ一般ヲ諒得セシム
ルハ斯業ノ改良ヲ圖ル上ニ甚ク緊要ナルヲ認メ明治四十年ヨリ大正三年マテ毎年一回短期講習ヲ開設シテ製絲法其他
必要ナル學科目ニ付教授ヲナセリ

第二 行啓及台臨

本校創設以來今日ニ至ル迄ノ間ニ於テ畏クモ

皇后陛下

皇太子殿下

皇太子妃殿下

ヲ始メ奉リ各 内親王殿下及皇孫殿下ノ行啓又ハ台臨ヲ辱フセルコト一再ナラス之レ獨リ本校ノ光榮トシテ永ク記念スヘキ所ナルニ止マラス誠ニ蠶絲業御獎勵ノ深キ御恩召ニ外ナラスト拜察セラル、ニ依リ茲ニ特ニ謹記シテ後ニ傳ヘントス

明治三十六年五月十七日

常宮、周宮兩内親王殿下本校（當時東京蠶業講習所）ニ台臨親シク養蠶製絲ノ實況ヲ御視察アラセラレタリ

明治三十七年六月二十六日

富美宮、泰宮兩内親王殿下本校（當時東京蠶業講習所）ニ台臨親シク養蠶製絲ノ實況ヲ御視察アラセラレタリ

明治三十八年五月三十一日

皇太子妃殿下（現皇太后陛下）本校（當時東京蠶業講習所）ニ行啓親シク養蠶製絲ノ實況ヲ御視察アラセラレタリ

明治四十一年五月三十日

伏見宮貞愛親王殿下本校（當時東京蠶業講習所）ニ台臨親シク養蠶製絲ノ實況ヲ御視察アラセラレタリ

明治四十一年六月三日

皇后陛下（昭憲皇太后陛下）本校（當時東京蠶業講習所）ニ行啓親シク養蠶製絲ノ實況ヲ嚮ハセラレ且ツ畏クモ農商務大臣ニ左ノ御言葉ヲ賜ハリタリ

御言葉の大意

此の蠶業講習所は今日始めて一覽せしに養蠶製絲のことにつきあらゆる方法を研究講習し其卒業生を各府縣に送りて傳習せしむること總て能く整ひ居る様に見受け喜ばしきことなり申すまでもなきことながら生絲は御國産中其最も重なるものなれば一同勉勵益斯業の發達を計らんことを望む

右の趣農商務大臣より皆々へ申傳へありたし

明治四十二年七月十二日

大日本蠶絲會總裁伏見宮貞愛親王殿下本校（當時東京蠶業講習所）卒業證書授與式ニ台臨親シク令旨ヲ賜ハリタリ

明治四十三年五月九日

迪宮（今上陛下）淳宮兩皇孫殿下ニハ學習院生徒ノ御資格ヲ以テ本校（當時東京蠶業講習所）ニ台臨養蠶製絲ノ實況ヲ御見學アラセラレタリ

行啓及台臨

明治四十三年六月二日

皇太子殿下(大正天皇)本校(當時東京蠶業講習所)ニ行啓親シク養蠶製絲其他生徒作業ノ實況ヲ御視察アラセラレタリ

明治四十三年七月九日

大日本蠶絲會總裁伏見宮貞愛親王殿下本校(當時東京蠶業講習所)卒業證書授與式ニ台臨親シク令旨ヲ賜ハリタリ
大正五年十月二十七日

皇后陛下(皇太后陛下)本校ニ行啓親シク學生、生徒作業ノ狀況竝ニ創立三十年記念式舉行ノ爲メ開催セル記念祝賀展覽會陳列ノ諸品ヲ贊ハセラレ且ツ畏クモ左ノ令旨ヲ賜ハリタリ

本校ハ今ヨリ拾餘年前一覽セルコトアリ本日再ヒ茲ニ臨ミ且多數ノ陳列品ヲ見ルニ其規模漸次完成ノ域ニ進ミ其研究進歩ノ績著シク御國ノ産業ニ裨益スル所尠カラサルヲ思ヒ誠ニ喜ハシキ次第ナリ爾今尙一層斯道ノ發達ニ盡力センコトヲ望ム

大正八年五月三十日

東伏見宮妃殿下本校ニ台臨養蠶製絲其他學生生徒作業ノ實況ヲ御視察アラセラレタリ

第三學年 曆

四月一日	學年開始
四月一日	第一學期開始
四月三日	休業(神武天皇祭)
四月二十九日	休業(天長節)
七月十五日	夏期休業始(實習實驗其他必要ニ應シテ變更スルコトアルヘシ)
九月十日	夏期休業終
秋分日	休業(秋季皇靈祭)
十月十七日	休業(神嘗祭)
十月二十四日	休業(本校記念日)
十一月三日	休業(明治節)
十一月二十日	第一學期終
十一月二十一日	第二學期始
十一月二十三日	休業(新嘗祭)
十二月二十五日	冬期休業始

一月七日	冬期休業終
二月十一日	休業 (紀元節)
春分日	休業 (春季皇靈祭)
三月二十五日	春期休業始 (栽桑學科ニハ此ノ期間ニ於テ圃場實習ヲ課スルコトアルヘシ)
三月三十一日	春期休業終
三月三十一日	第二學期終
三月三十一日	學年終

第四法 令

一 專門學校令 (抄) 明治三十六年三月二十七日 勅令第六十一號

- 第一條 高等ノ學術技藝ヲ教授スル學校ハ專門學校トス
- 專門學校ニ於テハ人格ノ陶冶及國體觀念ノ養成ニ留意スヘキモノトス
- 專門學校ハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外本令ノ規定ニ依ルヘシ
- 第五條 專門學校ノ入學資格ハ中學校(中略)又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スルモノト檢定セラレタル者以上ノ程度ニ於テ之ヲ定ムヘシ(下略)
- 第六條 專門學校ノ修業年限ハ三ヶ年以上トス
- 第七條 專門學校ニ於テハ豫科、研究科及別科ヲ置クコトヲ得
- 第八條 官立專門學校ノ修業年限、學科、學科目及其程度並ニ豫科、研究科及別科ニ關スル規定ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第十二條 第一條ニ該當セサル學校ハ專門學校ト稱スルコトヲ得ス

二 實業學校令 (抄) 明治三十二年二月七日 勅令第二十九號

- 第一條 實業學校ハ實業ニ従事スル者ニ須要ナル智識技能ヲ授クルヲ以テ目的トシ兼テ徳性ノ涵養ニ力ムヘキモノトス

法 令 專門學校令(抄) 實業學校令(抄)

ス

第二條 實業學校ノ種類ハ工業學校、農業學校、商業學校、商船學校、水産學校其ノ他實業教育ヲ爲ス學校及實業補習學校トス

獸醫學校ハ農業學校ト看做ス

第二條ノ二 實業學校ニシテ高等ノ教育ヲ爲スモノヲ實業專門學校トス

實業專門學校ニ關シテハ專門學校令ノ定ムル所ニ依ル

第八條 實業學校ノ修業年限、學科、學科目及其程度ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十四條 實業學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スルコトヲ得

第十五條 本令施行ノ爲ニ必要ナル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

三 文部省直轄諸學校官制(抄) 明治二十六年八月二十五日 勅令第八十六號

第一條 文部省直轄諸學校ハ左ノ如シ

- | | | | |
|------------|------------|----------|-----------|
| 東京女子高等師範學校 | 奈良女子高等師範學校 | 盛岡高等農林學校 | 鹿兒島高等農林學校 |
| 上田蠶絲專門學校 | 東京高等蠶絲學校 | 京都高等蠶絲學校 | 鳥取高等農業學校 |
| 三重高等農林學校 | 宇都宮高等農林學校 | 岐阜高等農林學校 | 官崎高等農林學校 |
| 千葉高等園藝學校 | 長崎高等商業學校 | 山口高等商業學校 | 小樽高等商業學校 |

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|----------|
| 名古屋高等商業學校 | 福島高等商業學校 | 大分高等商業學校 | 彦根高等商業學校 |
| 和歌山高等商業學校 | 横濱高等商業學校 | 高松高等商業學校 | 高岡高等商業學校 |
| 第一高等學校 | 第二高等學校 | 第三高等學校 | 第四高等學校 |
| 第五高等學校 | 第六高等學校 | 第七高等學校造士館 | 第八高等學校 |
| 新潟高等學校 | 松本高等學校 | 山口高等學校 | 松山高等學校 |
| 水戸高等學校 | 山形高等學校 | 佐賀高等學校 | 弘前高等學校 |
| 松江高等學校 | 東京高等學校 | 大阪高等學校 | 浦和高等學校 |
| 福岡高等學校 | 静岡高等學校 | 高知高等學校 | 姫路高等學校 |
| 廣島高等學校 | 富山藥學專門學校 | 熊本藥學專門學校 | 京都高等工藝學校 |
| 名古屋高等工業學校 | 熊本高等工業學校 | 米澤高等工業學校 | 桐生高等工業學校 |
| 横濱高等工業學校 | 廣島高等工業學校 | 金澤高等工業學校 | 仙臺高等工業學校 |
| 明治專門學校 | 東京高等工藝學校 | 神戸高等工業學校 | 濱松高等工業學校 |
| 德島高等工業學校 | 長岡高等工業學校 | 福井高等工業學校 | 山梨高等工業學校 |
| 秋田鑛山專門學校 | 東京高等商船學校 | 神戸高等商船學校 | 東京外國語學校 |
| 大阪外國語學校 | 東京高等齒科醫學校 | 東京美術學校 | 東京音樂學校 |
| 東京盲學校 | 東京聾啞學校 | | |

第六條 文部省直轄諸學校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 校長
- 教授
- 生徒主事
- 助教
- 書記
- 生徒主事補

前項職員ノ外文部省直轄諸學校職員定員令ノ定ムル所ニ依リ助手ヲ置クコトヲ得

第七條 校長ハ勅任又ハ奏任トス文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第八條 教授ハ勅任又ハ奏任トシ助教ハ勅任トス生徒ノ教育ヲ掌ル

第九條 文部省直轄諸學校職員定員令ニ於テ生徒主事ノ專任定員ヲ配置シタル學校ノ生徒主事ハ奏任トシ其ノ他ノ學校ノ生徒主事ハ當該學校ノ奏任教官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

生徒主事ハ校長ノ命ヲ承ケ生徒ノ訓育ヲ掌ル

第十條 書記ハ勅任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ従事ス

第十條ノ二 文部省直轄諸學校職員定員令ニ於テ生徒主事補ノ專任定員ヲ配置シタル學校ノ生徒主事補ハ勅任トシ其ノ他ノ學校ノ生徒主事補ハ當該學校ノ勅任教官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ命ス生徒主事補ハ上官ノ命ヲ承ケ生徒主事ノ職務

ヲ助ク

第十條ノ三 助手ハ勅任トス教授又ハ助教ノ指揮ヲ承ケ授業及實驗ノ補助ニ従事ス

第十七條 專任教官中其學校所設ノ某學科ヲ擔任スヘキ者ヲ得サル場合ニ於テハ兼任教官ヲ置キ若クハ學校校長ニ於テ特

ニ文部大臣ノ許可ヲ得テ臨時ニ講師ヲ囑託シ其學科ノ授業ヲ擔任セシムルコトヲ得

第十九條 文部大臣ハ校務上ノ須要ニ依リ學校ニ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其委員ハ文部大臣之ヲ命ス

四 文部省直轄諸學校專任職員定員令(抄) 明治三十五年三月二十八日 勅令 第九十九號

文部省直轄諸學校專任職員ノ定員左ノ如シ

東京高等蠶絲學校	校長	一	教授	十六	助教	八	助	授	一	手	書	七	記	一
----------	----	---	----	----	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(大正三年三月三十一日勅令第四十五號及同五年十二月二十八日勅令第二百六十四號同八年十二月五日勅令第四百八十七號同十年四月二十六日勅令第七十號同十四年四月一日勅令第八十一號同年六月三日勅令第二百十六號昭和二年十二月二十七日勅令第三百六十六號昭和七年十二月二十七日勅令第三百九十五號ヲ以テ改正)

五 專門學校入學者檢定規程(抄) 大正十三年十月十一日 文部省令第二十二號

第一條 專門學校ノ本科ニ入學セントスル者ニシテ中學校(中略)ヲ卒業セサル者ハ本令ニ依リ學力ノ檢定ヲ受クヘシ

法令 文部省直轄諸學校專任職員定員令 專門學校入學者檢定規程(抄)

第二條 檢定ヲ分チテ試験檢定及無試験檢定トス

第三條 試験檢定ハ毎年少クトモ一回之ヲ行フ

試験檢定ノ出願期限、試験施行ノ期日及場所ハ豫メ官報ヲ以テ之ヲ告示ス

第四條 試験檢定ノ學科目及其ノ程度ハ中學校(中略)ノ各學科目及其ノ卒業程度トス但シ中學校(中略)ニ於テ加除シ又ハ課セサルコトヲ得ル學科目ハ之ヲ省ク

第五條 試験檢定ヲ受ケントスル者ハ受験願書(第一號書式)ニ左ノ書類ヲ添へ受験地ノ地方廳ヲ經由シ文部大臣ニ出願スヘシ

一、履歷書(第二號書式)

二、戶籍抄本

三、寫眞(手札形トシ出願前三月以内ニ脱帽ニテ撮影シタルモノニシテ裏面ニ撮影年月日、本籍氏名ヲ記載スヘシ)

四、第七條第二項ニ依ル證明書ノ寫又ハ大正七年文部省令第三號第六條第二項ニ依ル證明書ノ寫

五、第八條ノ資格ヲ證明スル書面

第六條 試験檢定ヲ受ケントスル者ハ手数料トシテ金五圓ヲ納付スヘシ

第七條 試験檢定ニ合格シタル者ニハ合格證書(第三號書式)ヲ交付ス

試験檢定ヲ受ケタル者ニシテ之ニ合格セサルモ受験學科目中合格點ヲ得タルモノアルトキハ其ノ證明書(第四號書式)ヲ交付ス

前項ノ證明書ヲ有スル者ニシテ試験檢定ヲ出願シタルトキハ當該學科目ノ試験ヲ免除ス

前項ノ規程ハ大正七年文部省令第三號第六條第二項ニ依ル證明書ヲ有スル者ニ付之ヲ準用ス

第八條 試験檢定ノ學科目中一科目又ハ數科目ニ就キ中學校(中略)卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト認ムル者ニ對シテハ當該學科目ノ試験ヲ免除ス

第九條 合格證書ヲ有スル者其ノ氏名本籍ヲ變更シ又ハ合格證書ヲ亡失毀損シタルトキハ其ノ書換若ハ再交付ヲ出願スルコトヲ得

前項ニ依リ合格證書ノ書換若クハ再交付ヲ出願スル者ハ手数料トシテ金壹圓ヲ納付スヘシ

第十條 試験ニ關シ不正ノ行爲アリタル者ニ對シテハ其ノ試験ヲ停止シ尙期間ヲ定メテ試験ヲ受ケシメサルコトアルヘシ

大正七年文部省令第三號高等試驗令第七條及第八條ニ關スル件第八條ニ依リ試験ヲ停止セラレタル者ハ其ノ停止セラレタル期間本令ノ試験ヲ受クルコトヲ得ス

試験ニ關シ不正ノ行爲アリタルコト後日發覺シタルトキハ既ニ交付シタル合格證書又ハ證明書ハ其ノ効力ヲ失フ

第十一條 無試験檢定ハ當該専門學校ニ於テ入學ノ際之ヲ行フ

無試験檢定ヲ受クルコトヲ得ル者ハ文部大臣ニ於テ専門學校入學ニ關シ中學校(中略)卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト指定シタル者ニ限ル

前項ノ指定ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十二條 本令ニ依リ貼付スヘキ手数料ハ收入印紙ヲ用キ之ヲ願書ニ貼付スヘシ其ノ既ニ納メタル後ハ何等ノ事由アルモ之ヲ還付セス

六 入學試驗無効ニ關スル件

明治三十八年十月二十八日
文部省令第十八號

文部省直轄諸學校ノ生徒ニシテ豫メ學校長ノ許可ヲ受ケス他ノ文部省直轄諸學校ノ入學試驗ヲ受ケタルトキハ其入學試驗ハ無効トス

七 文部省直轄學校外國人特別入學規程

明治三十四年十一月十一日
文部省令第十五號

- 第一條 外國人ニシテ文部省直轄學校ニ於テ一般學則ノ規定ニ依ラス所定ノ學科ノ一科若クハ數科ノ教授ヲ受ケントスル者ハ外務省、在外公館又ハ本邦所在ノ外國公館ノ紹介アルモノニ限り特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ
- 第二條 前條ニ依リ教授ヲ受ケントスル外國人ハ前條ノ紹介書ヲ添ヘ帝國大學總長若クハ學校長ニ願出ツヘシ
- 第三條 帝國大學總長若クハ學校長ニ於テ前條ノ出願ヲ受ケタルトキハ相當ノ學力アリト認メタル者ニ限り之ヲ許可スヘシ但シ學校ノ設備上差支アル場合ハ此ノ限りニアラス
- 第四條 本令ノ規定ニ依リ入學シタル外國人ニシテ學科修了ノ證明書ヲ受ケントスル者ニハ試驗ノ上之ヲ附與スヘシ
- 第五條 本令ノ規定ニ依リ入學シタル外國人ニハ入學試驗料、入學料、及授業料ヲ徵收セサルコトヲ得
- 第六條 帝國大學總長及學校長ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ本令ニ關シ必要ナル細則ヲ設クルコトヲ得

附 則

第七條 本令施行ノ際文部省直轄學校ニ於テ一般學則ノ規定ニ依ラス在學スル外國人ハ本令ニ依リ入學シタル者ト看做ス

第八條 明治三十三年文部省令第十一號文部省直轄學校外國委託生ニ關スル規定ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

八 東京高等蠶絲學校規程

大正三年四月一日
文部省令第九號

東京高等蠶絲學校ノ修業年限、學科、學科目及其ノ程度並ニ研究生、選科生及養蠶實科製絲教婦科ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

東京高等蠶絲學校規程

- 第一條 東京高等蠶絲學校ノ修業年限ハ三箇年トス
- 第二條 東京高等蠶絲學校ノ學科ハ養蠶學科栽桑學科及製絲學科トス
- 第三條 東京高等蠶絲學校各學科ノ學科目及其ノ程度ハ左ノ如シ但シ各學科目ノ每週教授時數ハ修身ヲ除クノ外時宜ニヨリ之ヲ増減シ必要ノ場合ニハ教授定時間外又ハ休業期間ニ於テ臨時講演ヲ行ヒ若ハ實習實驗ヲ課スルコトアルヘシ

(學科目表略ス)

- 第四條 卒業者ニシテ既修ノ學科目ニ就キ研究セントスル者ハ研究生トシテ二箇年以内在學セシムルコトヲ得
- 第五條 各學科中ノ一學科目若クハ數學科目ヲ專修セントスルモノハ選科生トシテ在學ヲ許スコトヲ得
- 第六條 東京高等蠶絲學校ニ養蠶實科並ニ製絲教婦科ヲ置ク
- 第七條 養蠶實科及製絲教婦科ニ關スル規程ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ學校長之ヲ定ム

九 本校卒業者並ニ入學者ニ關スル認定

本校ハ高等試驗令ニ據リ高等學校、大學豫科ト同等以上ト指定セラレ且本校ニ入學シタル者ハ同試驗令ニ據リ中學校卒業者ト同等以上ノ學歷ヲ有スル者ト認定セラル而シテ卒業者ハ東北帝國大學理學部、九州帝國大學農學部、京都帝國大學農學部、東京、大阪工業大學、東京、廣島文理科大學ノ入學ニ關シテモ亦高等學校大學豫科卒業者ト同等ノ學力ヲ有スル者ト認定セラル其他本科卒業者ハ實業學校教員、養蠶實科卒業者(昭和二年三月以降)ハ實業補習學校教員タルノ資格ヲ有シ尙養蠶學科、栽桑學科卒業者ハ師範學校、中學校、高等女學校教員無試驗檢定ヲ受クルノ資格アリ

第五 規 則

一 東京高等蠶絲學校規則

第一章 總 則

- 第一條 本校ハ實業學校令及專門學校令ニ依リ蠶絲業ニ従事スヘキ者ニ必要ナル高等ノ教育ヲ施シ併セテ人格ノ陶冶及國體觀念ノ養成ニ努ムル所トス
 - 第二條 本校本科ノ學科ヲ分チテ養蠶學科、栽桑學科及製絲學科トス
 - 第三條 各學科ノ修業年限ハ三箇年トス
 - 第四條 本校ニ養蠶實科並ニ製絲教婦科ヲ置ク其ノ規程ハ別ニ之ヲ定ム
 - 第五條 本校ニ研究生及選科生ヲ置クコトアルヘシ
 - 第六條 研究生及選科生ニ關シテハ特別ノ規定アル場合ヲ除ク外本科ニ關スル規定ヲ準用ス
 - 第七條 本校ハ必要ニ應ジ養蠶、栽桑、製絲ニ關スル短期ノ講習ヲ爲スコトアルヘシ
- 短期講習ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第二章 學科目及其程度

第七條 各學科ノ學科目及其程度ハ左ノ如シ但シ各學科目ノ每週教授時數ハ修身ヲ除クノ外時宜ニヨリ之ヲ増減シ必

要ノ場合ニ於テハ教授定時間外又ハ休業期間ニ於テ臨時講演ヲ行ヒ若クハ實習實驗ヲ課スルコトアルヘン

一、養蠶學科 講義ノ部

學科目	學年		第一學年每週教授時數		第二學年每週教授時數		第三學年每週教授時數	
	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期
修身	二	二	二	二	二	二	二	二
經濟	二	二	二	二	二	二	二	二
法及	二	二	二	二	二	二	二	二
教育	三	三	三	三	三	三	三	三
英語	二	二	二	二	二	二	二	二
獨語	二	二	二	二	二	二	二	二
數學	三	三	三	三	三	三	三	三
觀測	三	三	三	三	三	三	三	三
物理	三	三	三	三	三	三	三	三
化學	三	三	三	三	三	三	三	三
動物	三	三	三	三	三	三	三	三
昆蟲	三	三	三	三	三	三	三	三
應用	三	三	三	三	三	三	三	三
植物	三	三	三	三	三	三	三	三

殖計	特民	農蠶	蠶絲	蠶業	製農	栽學	土壤	蠶論	蠶品	蠶種	蠶養	蠶體	蠶病	蠶體	蠶解剖	實驗	生遺	微物	植物	
話	義	學	規	史	意	學	學	論	學	學	學	學	學	學	學	學	學	學	學	學
三〇						二	二				二									
三〇						二	二				二									
三〇	三					二	二			二	三				二				二	
二九	三					二				三	三			二	二					
二九	二	三				二				二	二			二	二				二	三
不定時	不定時	二	三	二		二				二	二			二	二				二	三

規則 東京高等蠶絲學校規則

學科目	第一學年		第二學年		第三學年	
	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期
化學實驗	三	三	三	三	三	三
動物學及應用昆蟲學實驗	三	三	三	三	三	三
植物學及植物病理學實驗	三	三	三	三	三	三
蠶體解剖學及蠶體生理學實驗	三	三	三	三	三	三
微生物學及蠶體病理學實驗	三	三	三	三	三	三
實驗遺傳學實驗	一回	一回	一回	一回	一回	一回
養蠶種製造實習	不定時	不定時	不定時	不定時	不定時	不定時
蠶種製學實習	不定時	不定時	不定時	不定時	不定時	不定時
栽桑實習	不定時	不定時	不定時	不定時	不定時	不定時
滿實驗及製絲實習	不定時	不定時	不定時	不定時	不定時	不定時
特別實驗	不定時	不定時	不定時	不定時	不定時	不定時
調查、研究	不定時	不定時	不定時	不定時	不定時	不定時
計	九	九	九	九	九	九

一、特別講義ハ動物學ニ關スル學科、特別實驗ハ動物學ニ關スル實驗ヲ課ス
二、養蠶實習ハ校外ニ於テ課スルコトアルヘシ

三、調査、研究ハ第二學年ニアリテハ動物學、應用昆蟲學、蠶體解剖學及蠶體生理學、養蠶學、蠶種學、第三學年ニアリテハ右ノ外生物化學、實驗遺傳學、蠶體病理學、蠶體衛生學、農蠶業經營學ノ内各其一學科目ニ就キ第二學年ニ於テハ調査題目ヲ第三學年ニ於テハ研究題目ヲ豫メ當該學科目擔任教官ノ承認ヲ得テ四月末日迄ニ之ヲ届出テ教官指導ノ下ニ完成シ各其ノ報告ヲ十二月二十日迄ニ提出セシムルモノトス

二、栽桑學科

講義ノ部

學科目	第一學年		第二學年		第三學年	
	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期
修身	一	一	一	一	一	一
體操	二	二	二	二	二	二
法制及經濟	二	二	二	二	二	二
教育	三	三	三	三	三	三
英語	二	二	二	二	二	二
獨語	二	二	二	二	二	二
算術	二	二	二	二	二	二
觀測	三	三	三	三	三	三
物理	三	三	三	三	三	三
化學	三	三	三	三	三	三
氣象	三	三	三	三	三	三

學科目	學年		第一學年每週教授時數		第二學年每週教授時數		第三學年每週教授時數	
	學期	年	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期
化學			三	三	三	三	三	三
應用昆蟲學			三	三	三	三	三	三
植物生理學及栽桑學			三	三	三	三	三	三
植物病理學			三	三	三	三	三	三
圃場實習			三	三	三	三	三	三
桑樹病蟲害防除實習			三	三	三	三	三	三
蠶體解剖及蠶證病理學實習			三	三	三	三	三	三
養蠶實習			一回 不定時	一回 不定時	一回 不定時	一回 不定時	一回 不定時	一回 不定時

規則 東京高等蠶絲學校規則

實習實驗ノ部

殖特農蠶蠶農	計民別業蠶絲蠶農	講講經及業大	話義學規史意
三〇	三〇	三〇	三〇
三〇	三〇	三〇	三〇
三〇	三〇	三〇	三〇
二四	四	三	二
不定時	不定時	二	二

農業	作物	製蠶	蠶種	蠶體解剖生理及蠶證病理學	桑樹病蟲害防除論	栽桑	肥料	地質學	實驗遺傳	微生物	植物生理	植物生理	植物生理	應用昆蟲	動物	化學
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	三	三	三
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	三	三	三
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	三	三	三
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	三	三	三
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	三	三	三

規則 東京高等蠶絲學校規則

蠶種製造實習	一回	不定時
測量實習	不定時	三三
特別實驗	不定時	三三
調查研究	不定時	三三
計	不定時	三三

一、特別講義ハ植物學ニ關スル學科、特別實驗ハ植物學ニ關スル實驗ヲ課ス
 二、圃場實習ハ校外ニ於テ課スコトアルヘシ

三、調査、研究ハ第二學年ニアリテハ應用昆蟲學、植物學、植物生理學、肥料學、桑樹種苗學、栽桑學、第三學年ニアリテハ右ノ外植物病理學、生物化學、農蠶業經營學ノ内各其一學科目ニ就キ第二學年ニ於テハ調査題目ヲ第三學年ニ於テハ研究題目ヲ豫メ當該學科目擔任教官ノ承認ヲ得テ四月末日迄ニ之ヲ届出テ教官指導ノ下ニ完成シ各其ノ報告ヲ十二月二十日迄ニ提出セシムルモノトス

三、製絲學科 講義ノ部

修身	第一學年		第二學年		第三學年	
	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期
學科	第一學年每週教授時數	第二學年每週教授時數	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期
目	一	一	一	一	一	一

體操	法學	英語	佛學	數學	觀測	物理	化學	簿記	商業	應用	機械	絹織	絹織	蠶絲	養蠶	製絲	繭製	繭製
二	二	四	二	三	三	三	三	三	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
二	二	四	二	三	三	三	三	三	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二

第八條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第九條 學年ヲ分チテ左ノ二學期トス

第一學期ハ四月一日ニ始マリ十一月二十日ニ終ル

第二學期ハ十一月二十一日ニ始マリ三月三十一日ニ終ル

第十條 休業日ハ左ノ如シ

一、日 曜 日

一、本校記念日 十月二十四日

一、大祭日、祝 日

一、春季 休業(自三月二十五日 至三月三十一日) (裁桑學科ニハ此ノ期間ニ於テ圃場實習ヲ課スルコトアルヘシ)

一、夏季 休業(自七月十五日 至九月十日) (實習實驗其他必要ニ應シテ變更スルコトアルヘシ)

一、冬季 休業(自十二月二十五日 至一月二十七日)

第四章 入學、在學、退學及懲戒

第十一條 學生ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始メ一箇月以内トス

第十二條 各學科第一學年ニ入學ヲ許スヘキ者ハ品行方正志望鞏固ノ男子ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ且入學檢定ニ合格シタルモノタルヘシ

一、中學校ヲ卒業シタル者

二、專門學校入學者檢定規程ニ據ル試驗檢定ニ合格シタル者

三、專門學校入學者檢定規程第十一條ニ據リ一設專門學校ノ入學ニ關シ無試驗檢定ノ指定ヲ受ケタル者

第十三條 前項第一號及第三號ニ該當スル學校在學者ニシテ當該學校長ヨリ該學年三月末日マテニ卒業スヘキ見込アリト認定セラレタル者ハ其ノ證明ヲ以テ入學ヲ願出ツルコトヲ得前項入學志願者ハ其ノ學校ヲ卒業シタルトキ直チニ卒業證明書ヲ提出スヘシ

第十四條 入學檢定ヲ分チテ試驗檢定及無試驗檢定トス

第十五條 試驗檢定ハ入學前ニ於ケル學業成績並ニ人物調査書、本校ノ施行スル口頭試問、身體檢査及學力試驗ニ據リ之ヲ行フ

無試驗檢定ハ第一次檢定(入學前ニ於ケル學業成績並ニ人物調査書ニ依ル考査)及第二次檢定(本校ノ施行スル口頭試問、身體檢査)ニ依リ之ヲ行フ

但第二次檢定ハ第一次檢定ニ合格セル者ニ就キ之ヲ行フ

第十六條 學力試驗ハ英語、數學、動物學及植物學ノ内三科目以内トシ中學校卒業程度ニ依リ之ヲ行フ
但其ノ學科目ハ學生募集ノ都度之ヲ公示ス

第十七條 左記各號ノ一ニ該當スル入學志願者ハ無試驗檢定ヲ受クルコトヲ得

一、第十二條第一號及第三號ノ志願者ニシテ最終學年ノ學業成績ノ席次首位ヨリ數ヘテ其ノ學級ノ及第者全數ノ十

分ノ一以内ニ在リテ卒業後一箇年以上ヲ經過セサル者

二、第十三條ノ卒業見込者ニシテ前學年ノ學業成績ノ席次並ニ當學年ノ第一學期及第二學期ノ學業成績ノ席次首位ヨリ數ヘテ其ノ學級生徒全數ノ十分ノ一以内ノ者

第十八條 無試験檢定ニ依リ入學ヲ許可スヘキ人員ハ各學科募集人員ノ三分ノ一以内トス

第十九條 無試験檢定入學志願者ニシテ第一次檢定ニ合格セザリシ者ハ試験檢定ニ應スルコトヲ得但此場合ニハ檢定手數料ノ再納ヲ要セス

第二十條 入學ヲ出願スル者ハ第二條ニ掲ケタル學科中ニ就キ其ノ志望學科ヲ定メ入學願書(第一號書式)ニ入學檢定手數料及寫眞(出願前六箇月以内ニ撮影シタル脱帽半身手札形)ヲ添ヘ學校長ニ差出シ同時ニ入學前在學シタル學校長又ハ之ニ準スヘキ官廳ヘ學業成績證明書並ニ人物調査書進達方ヲ願ヒ出ツヘシ

第二十一條 入學ヲ許可セラレタル者ハ許可ノ日ヨリ三十日以内ニ誓書(第二號書式)及戶籍謄本ヲ差出スヘシ

第二十二條 保證人ハ二人トス内一人ハ東京市内若ハ本校附近在住ノ公民又ハ本校ニ於テ適當ト認メタルモノタルヘシ

第二十三條 保證人死亡若ハ前條ノ資格ヲ失ヒタルトキ又ハ學校ニ於テ不適當ナリト認メタルトキハ更ニ保證人ヲ定メ直チニ誓書ヲ本校ニ差出スヘシ

第二十四條 保證人改姓、改名、轉籍、轉居若ハ改印等ヲ爲シタルトキハ速ニ届出ツヘシ

第二十五條 本校ヲ退學シタル者再入學ヲ願出タルトキハ缺員アル場合ニ限り詮議ノ上試験ヲ行ヒ原級以下ニ入學ヲ許可スルコトアルヘシ但シ場合ニヨリ試験ヲ省略ス試験ノ全部ヲ省略シタルトキハ入學檢定手數料ヲ徵收セス



第二十六條 學生ハ本校所定ノ制服制帽ヲ着用スヘシ但シ新人學生ハ其ノ入學ノ日ヨリ一箇月以内ハ此限りニアラス

第二十七條 學生疾病其他已ムヲ得サル事由ニ依リ缺席スル者ハ其ノ事由ヲ詳記シ當日中ニ届出ツヘシ但シ疾病ノ爲メ缺席七日以上ニ亙ル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添付スルヲ要ス

第二十八條 學生疾病ニ依リ引續キ三箇月以上修業シ能ハスト思料スルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ保證人連署ヲ以テ願書ヲ差出シ許可ヲ得テ其ノ學年間休學スルコトヲ得但シ其ノ事由消滅シタルトキハ許可ヲ得テ休學ヲ取消シ原級ニ復スルコトヲ得

第二十九條 學生在學中兵役ニ服スル者ハ其ノ間休學スルモノトス

前項ニヨリ休學シタル者服役ヲ終リタルトキハ直チニ原級ニ復スヘシ

第三十條 學生改姓、改名、轉籍、轉居若ハ改印ヲ爲シタルトキハ其ノ旨直チニ届出ツヘシ

第三十一條 學生ハ許可ヲ受タルニアラサレハ他ノ學校ニ入り又ハ他ノ學校若ハ官署ニ於ケル各種ノ試験ニ應スルコトヲ得ス

前項ノ許可ヲ受ケントスル者ハ其ノ事由ヲ具シ保證人連署ノ上願出ツヘシ

第三十二條 學生疾病其他已ムヲ得サル事由ニ依リ退學セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ保證人連署ノ上願出ツヘシ但シ疾病ニ因リ退學セントスル場合ニ於テハ願書ニ醫師ノ診斷書ヲ添付スルヲ要ス

第三十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ退學セシム

一、學業劣等若ハ身體虛弱ニ依リ成業ノ見込ナシト認メタル者

- 二、同一學年ニ留マルコト二箇年ヲ超ユル者
- 三、正當ノ事由ナクシテ引續キ三十日以上缺席シタル者
- 四、正當ノ事由ナクシテ出席常ナラサル者
- 五、授業料滞納二週日以上ニ亙ル者
- 第三十四條 學生ニシテ校規命令又ハ訓育ノ趣旨ニ違背シ其ノ本分ヲ失ヘリト認ムヘキ行爲アル者ハ之ヲ懲戒ス懲戒ヲ分チテ譴責、停學、除名、放校トス

第五章 修業及卒業

- 第三十五條 各學年ノ課程修了ハ該學年間ニ於ケル平素ノ勤惰及學年ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ム
- 第三十六條 前條ノ考査ニ合格セサル者ニハ次學年ノ始メヨリ原級ノ課程ヲ再修セシムルモノトス
- 第三十七條 已ムヲ得サル事由ニ依リ試験ニ缺席シタル者ニシテ三日以内ニ追試験ヲ出願シタルトキハ該議ノ上之ヲ許可スルコトアルヘシ
- 第三十八條 第三學年ノ課程ヲ終了シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス
- 第三十九條 第三學年ノ成績考査ニ合格セサル者ニハ本人ノ希望ニ依リ詮議ノ上修業證書ヲ授與スルコトアルヘシ
- 第四十條 成績考査ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第六章 特待生

- 第四十一條 學生品行方正ニシテ學業ニ精勵シ一學年中ノ學業成績優等ナル者ハ次學年間特待生ト爲スコトアルヘシ
- 第四十二條 特待生ヨリハ授業料ヲ徴收セス
- 第四十三條 特待生ニシテ品行若ハ勤惰ノ點ニ於テ其ノ資格ヲ失ヒタル者ハ直チニ特待生タルコトヲ罷ム

第七章 入學檢定手数料、授業料及實習實驗費

- 第四十四條 入學檢定手数料ハ金五圓トス
- 第四十五條 授業料ハ一學年金八拾圓トス
- 第四十六條 授業料ハ一箇年ヲ左ノ三期ニ分チ每期ノ始メ指定ノ期間ニ於テ之ヲ徴收ス
 - 第一期 自四月至八月 金 參拾圓
 - 第二期 自九月至十二月 金 貳拾五圓
 - 第三期 自一月至三月 金 貳拾五圓
- 第四十七條 授業料納付期間以後ニ入學ヲ許可セラレタル者ヨリハ入學許可ノ日ヨリ五日以内ニ授業料ヲ徴收ス
- 第四十八條 實業學校教員養成規程ニ依リ學資補給希望者ニ對シテハ其ノ補給決定ニ至ル迄授業料徴收ヲ猶豫シ補給生トナリタルトキハ之ヲ徴收セス

入學後家庭ノ事情ニ由リ學資ノ支辨極メテ困難トナリタル者ニハ其事情及學業成績勤惰性情等ヲ調査シ授業料ノ一部若ハ全部ヲ免除スルコトアルヘシ

授業料ノ免除ハ學年毎ニ之ヲ定ム但學年ノ中途ニ於テ之ヲ定メタルトキハ次ノ徵收期分ヨリ免除シ其ノ一部ヲ免除シタルトキノ授業料ハ第四十六條ニ規定セル各期徵收額ノ割合ヲ以テ分割徵收スルモノトス

第四十九條 停學ヲ命セラレ又ハ休學ヲ許可セラレタルニ因リ期間ノ全部ニ亙リ缺席セル者ヨリハ其ノ期ノ授業料ヲ徵收セス

第五十條 授業料納付期以前ニ停學ヲ命セラレ又ハ休學ヲ許可セラレタル者ヨリハ其ノ月ノ授業料トシテ金八圓ヲ指定ノ日ニ徵收ス

第五十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヨリハ其ノ事由ノ生シタル月ヨリ一箇月金八圓ノ割ヲ以テ次ノ授業料納付期ノ前月マテノ授業料ヲ指定ノ日ニ徵收ス

一、特待生ノ資格消滅シタル者

二、授業料ノ免除ヲ止メラレタル者

三、停學ヲ解除セラレ就學シタル者

四、休學ノ事故止ミ就學シタル者

五、學期ノ半途ニ於テ入學ヲ許可セラレタル者

第五十二條 研究生若ハ選科生ヨリハ實習實驗ニ要スル費用ノ全部若ハ一部ヲ徵收スルコトアルヘシ

第五十三條 入學檢定手数料、授業料及實習實驗費ハ一旦納付ノ後ハ何等ノ事由アリト雖モ之ヲ返付セス

第八章 研究生

第五十四條 本校又ハ本校ト同等以上ノ學校卒業者ニシテ蠶絲業ニ關聯セル學科目ニ就キ研究セムトスル者アル時ハ該ノ上研究生トシテ二箇年以内在學ヲ許可スルコトアルヘシ

第五十五條 研究生タラムトスル者ハ其ノ研究セムトスル事項及在學ノ期間ヲ明示セル願書ニ履歷書、卒業證明書及戶籍謄本ヲ添付シ學校長ニ差出スヘシ但本校卒業者ハ卒業證明書ヲ要セス

第五十六條 研究生ハ教官指導ノ下ニ本校内ニ於テ研究ニ従事スルモノトス但シ必要ノ場合ニ限り許可ヲ得テ本校外ニ於テ研究スルコトヲ得

第五十七條 研究生其ノ研究事項ヲ終了シタルトキハ研究報告書ヲ學校長ニ差出スヘシ

第五十八條 學校長研究報告書ヲ考査シ其ノ成績佳良ナリト認メタル者ニハ研究證明書ヲ授與ス

第九章 選科生

第五十九條 本校所定ノ各學科目ノ中ニ就キ專修センコトヲ願出ツル者アルトキハ該議ノ上選科生トシテ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第六十條 選科生トシテ入學ヲ許可スヘキ者ハ左ノ各號ニ該當シ且本校ニ於テ適當ト認ムル者ニ限ル

一、品行方正身體強健ナル者

- 二、年齢満十七年以上ノ者
- 三、三箇年以上引續キ志望學科目ニ關スル事業ニ從事シタル者又ハ中學校卒業者若ハ之ト同等以上ノ學歷ヲ有スル者
- 四、官廳、蠶絲業團體若ハ蠶絲業者ノ委託ニ係ル者
- 第六十一條 選科生ノ入學時期ハ每學年ノ始メ一箇月以内トス
- 第六十二條 選科生ノ在學期間ハ三箇年以内トス
- 第六十三條 選科生ニハ在學中成績優良ナル學科目ニ就キ修業證書ヲ授與ス

第十章 寄 宿 舍

第六十四條 寄宿舍ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

附 則

- 第六十五條 本則ノ改正ハ昭和八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 本則施行ノ際現ニ第二學年以上ニ在學セル學生ニ對スル學科目及其ノ程度ニ關シテハ在學中ノ新舊學科課程ヲ斟酌シテ學校長之ヲ定ム
- 但本則施行ノ際現ニ在學セル選科生ノ授業料ハ其在學中仍從前ノ規程ニ依ル
- 第一號書式（本校ヨリ交付ス）

大 學 願 書

私儀御校へ入學志願ニ付寫眞及入學檢定手数料金五圓相添へ（身上ニ關スル證明書ハ直接出身學校長ヨリ提出）此段及御願候也

（氏名印）

東京高等蠶絲學校長 本多岩次郎殿

本籍地	第一志望	科	無試験第一次檢定不合格ノ場合 試験檢定受驗希望ノ有無	受驗地
	第二志望	科		
現住所	氏名 (フリガナ)			
各種ノ通知ヲ受クヘキ場所	生年月日	年	月	日生
	戸主氏名及 戸主トノ續柄			
願出日付	昭和	年	月	日
履 歴	族 稱 及 家 業			
	學業			
職業				兵役
賞罰				

備考

- 一、檢定種別欄ニハ試験若ハ無試験ト記入スヘシ
- 二、本願書ヲ本校ヘ提出ト同時ニ出身學校長又ハ之ニ準スル箇所ヘ身上ニ關スル證明書用紙ヲ送付シ本校ヘ進達方ヲ願出ツヘシ
- 三、卒業見込者ハ卒業成績ノ判明次第報告ヲ要ス

第二號書式 (用紙美濃)

參 入 錢 紙 收 印

誓 書

私儀今般貴校へ入學許可相成候ニ付キテハ校規命令及訓育ノ御趣旨ヲ遵守シ專心學業ヲ勉勵可致候仍テ誓書如此候也

現在所

本籍地

族稱戶主 (若ハ戶主トノ續柄)

何

某 ㊦

年月日生

右何某在學中御規則等堅ク相守ラセ候事ハ勿論退學後タリトモ同在在學中ニ係ル一切ノ事件ハ拙者ニ於テ引受可申候此段保證仕候也

現住所

本籍地

族稱職業本人トノ續柄

保證人 何

某 ㊦

年月日生

(保證人ハ二人連署ノコト)

東京高等蠶絲學校長 何 某殿

二 東京高等蠶絲學校養蠶實科規程

第一章 總 則

- 第一條 養蠶實科ハ養蠶業ニ従事スヘキ者ニ必要ナル教育ヲ施スヲ以テ目的トス
- 第二條 修業年限ハ一ヶ年トス

第二章 學科目及其程度

規則 養蠶實科規程

第三條 學科目及其程度ハ左ノ如シ

但シ各學科目ノ每週教授時數ハ修身ヲ除クノ外時宜ニヨリ之ヲ増減シ必要ノ場合ニ於テハ教授定時間外又ハ休業期間ニ於テ臨時講演ヲ行ヒ又ハ實習實驗ヲ課スルコトアルヘシ

講義ノ部

學科目	學期	第一學期每週教授時數	第二學期每週教授時數
修身		二	二
經濟		二	二
教育		二	二
生物		二	二
實驗		二	二
遺傳		二	二
蠶體解剖及生理		二	二
蠶病		二	二
蠶種		三	三
蠶繭		三	三
土壤及肥料		二	二
桑樹病蟲害論		二	二

實習實驗ノ部

學科目	學期	第一學期每週教授時數	第二學期每週教授時數
栽桑論		三	三
製絲論		二	二
蠶業史及法規		二	二
蠶業經營論		二	二
計		三	三

學科目	學期	第一學期每週教授時數	第二學期每週教授時數
蠶體解剖及生理實驗		三	三
蠶病理實驗		三	三
蠶種製造實驗		一回	
蠶繭實驗		不定時	不定時
桑樹病蟲害實驗		不定時	不定時
栽桑實驗		不定時	不定時
繭實驗及製絲實習		不定時	不定時
計		不定時六	不定時六

第三章 入學及在學

規則 養蠶實科規程

第四條 生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始メ一箇月以内トス

第五條 入學ヲ許可スヘキ者ハ一箇年以上養蠶ノ經驗ヲ有シ品行方正志望鞏固ノ男子ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ且入學檢定ニ合格シタル者タルヘシ

一、尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限五年、高等小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限三年ノ農業學校若ハ之ト同等以上ノ學校ヲ卒業シタル者

二、前號ヲ除クノ外專門學校入學者檢定規程第十一條ニ據リ一般ノ專門學校ノ入學ニ關シ無試験檢定ノ指定ヲ受ケタル者

三、中學校ヲ卒業シタル者

四、專門學校入學者檢定規定ニ據ル試験檢定ニ合格シタル者

五、年齢十七年以上ニシテ前各號ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト認メタル者

第六條 前條第一號、第二號及第三號ニ該當スル學校在學者ニシテ當該學校長ヨリ該學年三月末日迄ニ卒業スヘキ見込アリト認定セラレタル者ハ其ノ證明ヲ以テ入學ヲ願出ツルコトヲ得

前項入學志願者ハ其ノ學校ヲ卒業シタル時直ニ卒業證明書ヲ提出スヘシ

第七條 入學試験ヲ分チテ試験檢定及無試験檢定トス

試験檢定ハ本校ノ施行スル口頭試問、身體検査及學力試験ニ依リ之ヲ行フ

無試験檢定ハ第一次檢定（入學前ニ於ケル學業成績並ニ人物調査書ニ依ル考査）及第二次檢定（本校ノ施行スル口頭

試問、身體検査）ニ依リ之ヲ行フ

但第二次檢定ハ第一次檢定ニ合格セル者ニ就キ之ヲ行フ

第八條 無試験檢定ニ依リ入學ヲ許可スヘキ人員ハ募集人員ノ二分ノ一以内トス

第九條 無試験檢定ハ第五條第一號、第二號、第三號及第四號ニ該當スル者ニ對シ之ヲ行ヒ試験檢定ハ同條第五號ニ

該當スル者ニ對シ之ヲ行フモノトス

第十條 無試験檢定志願者ニシテ第一次檢定ニ合格セザリシ者ハ試験檢定ニ應スルコトヲ得

但シ此場合ニハ入學檢定手数料ノ再納ヲ要セス

第十一條 試験檢定ノ學科目ハ國語、數學、理科及養蠶法トシ尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限五年ノ農業學校卒業ノ程度ニヨリ之ヲ行フ

第十二條 入學ヲ出願スル者ハ入學願書ニ入學檢定手数料及寫眞（出願前六箇月以内ニ撮影シタル脱帽半身手札形）ヲ添ヘ學校長ニ差出スヘシ

第十三條 生徒ハ本校所定ノ制服制帽ヲ着用スヘシ

但シ新入生ハ其ノ入學ノ日ヨリ一箇月以内ハ此限ニアラス

第四章 入學檢定手数料及授業料

第十四條 入學檢定手数料ハ金五圓トス

規則 養蠶實科規程

第十五條 授業料ハ一箇年金七拾五圓トス

第十六條 授業料ハ左ノ三期ニ分チ毎期ノ始メ指定ノ期間内ニ於テ之ヲ徴收ス

第一期 自四月 至八月 金 參拾圓

第二期 自九月 至十二月 金 貳拾五圓

第三期 自一月 至三月 金 貳拾圓

第十七條 授業料納付期以前ニ停學ヲ命セラレ又ハ休學シタル者ヨリハ其ノ月ノ授業料トシテ金七圓五拾錢ヲ指定ノ日ニ徴收ス

第十八條 停學ヲ解除セラレ又ハ休學ノ事故止ミ就學シタル者ヨリハ一箇月金七圓五拾錢ノ割合ヲ以テ次ノ授業料納付

期ノ前月マテノ授業料ヲ指定ノ日ニ徴收ス

附 則

第十九條 本規程ノ改正ハ昭和八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本規程ニ特別ノ定メナキモノハ總テ東京高等蠶絲學校規則ヲ準用ス但シ研究生及選科生ニ關スル事項ヲ除ク

三 東京高等蠶絲學校製絲教婦科規程

第一章 總 則

第一條 製絲教婦科ハ製絲ノ教婦タルヘキ者ニ必要ナル教育ヲ施スヲ以テ目的トス

第二條 修業年限ハ二箇年トス

第二章 學科目及其程度

第三條 學科目及其程度ハ左ノ如シ但シ各學科目ノ每週教授時數ハ修身ヲ除クノ外時宜ニヨリ増減シ必要ノ場合ニ於テハ教授定時間外又ハ休業期間ニ於テ臨時講演ヲ行ヒ又ハ實習ヲ課スルコトアルヘシ

講義ノ部

學科目	學年		講義ノ部	
	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期
修身及操作	二	二	二	二
國語及衛生	一	一	一	一
算術及文法	一	一	一	一
物理及化學	二	二	二	二
機械學大意	二	二	二	二
蠶絲原藏論	一	一	一	一
製絲貯藏論	二	二	二	二
繭乾燥貯藏論	一	一	一	一

規則 製絲教婦科規程

規則 製絲教婦科規程

製絲	二	二	二	二
繭整理論				
生絲檢査論				
工場管理及衛生論	一	一	一	一
計	一三	一三	一三	一三

五〇

實習實驗ノ部

學科目	學年		第二學年每週教授時數	
	第一期	第二期	第一期	第二期
繭實習	三	三	三	三
繭整理	二	二	二	二
繭檢査	三	三	六	三
生絲實習	三	三	二	二
生絲整理	三	三	二	二
生絲檢査	三	三	六	三
計	三八	三八	三八	三八

第三章 入學及在學

第四條 生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始一箇月以內トス

第五條 入學ヲ許可スヘキ者ハ身體強健、品行方正、志望鞏固ノ女子ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ且地方長官ノ推薦ニ係ル者タルヘシ

- 一、高等女學校卒業者
- 二、女子實業學校卒業者

但尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限四年、高等小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限二、三年若ハ之ト同等以上ノ實業學校卒業者ニ限ル

其ノ成績優秀ナル者

第六條 入學志願者ハ本校ニ於テ詮衡シ更ニ本校ノ施行スル口頭試問及身體檢査ノ上入學ヲ許可ス

第七條 入學ヲ出願スル者ハ左ノ書類ニ寫眞(出願前六箇月以內ニ撮影シタル脱帽半身手札形)ヲ添ヘ地方廳ヲ經テ學校長ニ差出スヘシ

一、入學願書(第一號書式)

二、履歷書(第二號書式)

三、戶籍謄本

四、身體檢査證(第三號書式)

第八條 生徒ハ本校所定ノ制服ヲ着用スヘシ但新入生ハ其入學ノ日ヨリ一箇月以內ハ此限りニアラス

第四章 授業料

第九條 授業料ハ一學年金拾八圓トス

第十條 授業料ハ一箇年ヲ左ノ三期ニ分チ每期ノ始メ指定ノ期間内ニ於テ之ヲ徴收ス

第一期	自 四月	至 八月	金 八 圓
第二期	自 九月	至 十二月	金 五 圓
第三期	自 一月	至 三月	金 五 圓

第十一條 授業料納付期以前ニ停學ヲ命セラレ又ハ休學シタル者ヨリハ其ノ月ノ授業料トシテ金壹圓八拾錢ヲ指定ノ日ニ徴收ス

第十二條 左ノ各號ノ一ニ當スル者ヨリハ其ノ事由ノ生シタル月ヨリ一箇月金壹圓八拾錢ノ割合ヲ以テ次ノ授業料納付期ノ前月マテノ授業料ヲ指定ノ日ニ徴收ス

- 一、停學ヲ解除セラレ就學シタル者
- 二、休學ノ事故止ミ就學シタル者

附 則

第十三條 本規程ニ特別ノ定メナキモノハ總テ東京高等蠶絲學校規則ヲ準用ス但シ特待生研究生及選科生ニ關スル事項ヲ除ク

本規程ノ改正ハ昭和八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式 (用紙美濃)

入 學 願 書

私儀貴校製絲教婦科へ入學志願ニ付御許可相成度別紙履歷書戶籍謄本身體檢査證及寫真相添へ此段相願候也

現住所

本籍地

族稱戶主(若ハ戶主トノ續柄)

入學志願者 何

年月日生 某印

年月日

東京高等蠶絲學校長 何 某殿

第二號書式 (用紙美濃)

履 歷 書

現住所

本籍地

族稱戶主(若ハ戶主トノ續柄)

何 年月日生 某

一、學業

何年何月ヨリ何年何月迄何學校ニ於テ若ハ何某ニ就キ何々修業

何年何月何學校ニ於テ何々卒業證書又ハ何々修業證書ヲ受ク

一、職業

何年何月ヨリ何年何月迄何處ニ於テ製絲業ニ従事ス

何々

一、賞罰

何年何月何處ニ於テ何々ノ賞罰ヲ受ク

右ノ通相違無之候也

年 月 日

第三號書式 (用紙美濃)

身體検査證

現住所
本籍地
族稱

何

某

年月日生

體身體	胸	中	色	聽	痘	呼	神	血	皮	言
格	長	重	力	力	視	心	行	經	吸	器
常	差	時	障	害	有	無	耳	疾	疾	疾
右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右

既往及現在ノ疾病又ハ畸形
右検査候處相違無之候也
検査年月日

現住所

醫師

學位(若ハ資格)

何

某印

第六 諸規程

一 本校處務規程

第一章 校務分掌

第一條 本校ノ事務ヲ處理スル爲左ノ課ヲ置キ各課ニ課長ヲ置ク

庶務課

會計課

教務課

學生課

圖書標本課

第二條 庶務課長及會計課長ハ書記中ヨリ教務課長及圖書標本課長ハ教授中ヨリ學生課長ハ生徒主事中心ヨリ學校長之ヲ命ス

第三條 本校ノ業務ハ左ノ區分ニ從ヒ之ヲ處理スル爲各業務主任ヲ置ク

化學實驗室

栽桑學實驗室

病理學實驗室

繭及生絲實驗室

解剖學實驗室

桑園及同園內教室

研究 蠶室

汽罐及冷藏庫

實習 蠶室

第一工場

乾繭及貯繭室

第二工場

第三及第四工場

第四條 業務主任ハ教官中心ヨリ學校長之ヲ命ス

第五條 課長及業務主任ハ學校長ノ命ヲ受ケ分掌事務又ハ業務整理ノ責ニ任スルモノトス

第六條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ處理ス

一 御眞影及勅語謄本ニ關スル事項

一 學校印及學校長ノ官印保管ニ關スル事項

一 校旗ノ保管ニ關スル事項

一 職員ノ進退身分及服務ニ關スル事項

一 職員ノ叙位叙勳ニ關スル事項

一 職員ノ願伺届ニ關スル事項

一 在外研究員ニ關スル事項

一 公文書處理ニ關スル事項

一 法律命令ノ加除訂正ニ關スル事項

一 規則及諸規程ノ制定變更ニ關スル事項

諸 規 程

- 一 學校長ノ命令傳達ニ關スル事項
- 一 記録統計、一覽、報告及日誌ニ關スル事項
- 一 儀式ニ關スル事項
- 一 名簿、履歷書、出勤簿ニ關スル事項
- 一 宿直ニ關スル事項
- 一 校舎、校地ノ警備取締ニ關スル事項
- 一 校內衛生ニ關スル事項
- 一 備人ニ關スル事項
- 一 本課ニ屬スル物品ノ管理ニ關スル事項
- 一 本課ニ屬スル文書ノ起案、編纂、保管ニ關スル事項
- 一 門衛ニ關スル事項
- 一 職員ノ出張ニ關スル事項
- 一 來觀人ニ關スル事項
- 一 非常事變ニ關スル事項
- 一 他課ニ屬セサル一切ノ事項

第七條 會計課ニ於テハ左ノ事務ヲ處理ス

- 一 歲入歲出豫算決算ニ關スル事項
 - 一 現金ノ出納及保管ニ關スル事項
 - 一 經費ノ運用ニ關スル事項
 - 一 資金ニ關スル事項
 - 一 物品ノ出納及保管ニ關スル事項
 - 一 生産品ノ出納及保管ニ關スル事項
 - 一 寄贈品ノ取扱ニ關スル事項
 - 一 國有財産ノ維持、保存及監理ニ關スル事項
 - 一 官舎貸渡ニ關スル事項
 - 一 生産品及不用物品ノ處分ニ關スル事項
 - 一 經費ノ收支、物品ノ出納及國有財産等ノ證明ニ關スル事項
 - 一 科學研究費ニ關スル事項
 - 一 本課ニ屬スル文書ノ起案、編纂及保管ニ關スル事項
 - 一 其他會計ニ關スル一切ノ事項
- 第八條 教務課ニ於テハ左ノ事務ヲ處理ス
- 一 講堂及教室ノ設備ニ關スル事項

諸 規 程

- 一 授業時間割ニ關スル事項
- 一 授業及休業ニ關スル事項
- 一 教科書及參考書ニ關スル事項
- 一 學生生徒ノ募集入學檢定ニ關スル事項
- 一 研究生選科生ニ關スル事項
- 一 學籍ニ關スル事項
- 一 退學及休學ニ關スル事項
- 一 試驗成績調査、進級卒業及修業ニ關スル事項
- 一 教授會ニ關スル事項
- 一 見學修學旅行及校外實習ニ關スル事項
- 一 在學證明ニ關スル事項
- 一 教務ニ關スル命令傳達並ニ通知ニ關スル事項
- 一 本課ニ屬スル文書起案、編纂及保管ニ關スル事項
- 一 本課ニ屬スル物品ノ管理ニ關スル事項
- 一 教務ニ關スル諸規程ノ制定變更ニ關スル事項
- 一 卒業生ノ身上ニ關スル一切ノ事項

第九條 學生課ニ於テハ左ノ事務ヲ處理ス

- 一 講習及講演會ニ關スル事項
- 一 其他教務ニ關スル一切ノ事項
- 一 學生生徒ノ訓育ニ關スル事項
- 一 學生生徒ノ風紀及取締ニ關スル事項
- 一 學生生徒ノ衛生及身體檢査ニ關スル事項
- 一 體育運動ニ關スル事項
- 一 學生生徒ノ服制ニ關スル事項
- 一 學生生徒ノ勤惰ニ關スル事項
- 一 學生生徒ノ賞罰ニ關スル事項
- 一 特待生ニ關スル事項
- 一 級長ニ關スル事項
- 一 旗手及護衛者ニ關スル事項
- 一 學生控室ニ關スル事項
- 一 學生生徒ノ揭示印刷物等ノ取締ニ關スル事項
- 一 學生生徒ノ集會ニ關スル事項

- 一 學生生徒ノ家庭トノ連絡ニ關スル事項
 - 一 學生生徒ノ願伺届ニ關スル事項
 - 一 學生生徒ノ歸省及旅行ニ關スル事項
 - 一 本課ニ屬スル文書ノ起案、編纂及保管ニ關スル事項
 - 一 本課ニ屬スル物品ノ管理ニ關スル事項
 - 一 學生生徒ニ關スル諸規程ノ制定變更ニ關スル事項
 - 一 學生ノ兵役ニ關スル事項
 - 一 學生生徒ノ入退舍及寄留ニ關スル事項
 - 一 學生生徒ノ宿泊所及保證人ニ關スル事項
 - 一 寄宿舍所及出入商人ニ關スル事項
 - 一 寄宿舍ノ監督ニ關スル事項
 - 一 其他學生生徒身上ニ關スル一切ノ事項
- 第十條 圖書標本課ニ於テハ左ノ事務ヲ處理ス
- 一 圖書ノ出納整理保管ニ關スル事項
 - 一 圖書印章ノ監守ニ關スル事項
 - 一 書庫及閱覽室ノ整理取締ニ關スル事項

- 一 圖書貸付ニ關スル事項
 - 一 圖書目錄編纂ニ關スル事項
 - 一 官報、新聞、雜誌、報告書類ノ整理及保存ニ關スル事項
 - 一 圖書館ノ設備及管理ニ關スル事項
 - 一 本課ニ屬スル物品ノ管理ニ關スル事項
 - 一 本課ニ屬スル文書ノ起案、編纂及保管ニ關スル事項
 - 一 標本出陳、貸與ニ關スル事項
 - 一 標本ノ出納、轉換ニ關スル事項
 - 一 標本室ノ整理、保管ニ關スル事項
 - 一 其他圖書標本ニ關スル一切ノ事項
- 第十一條 各課ノ事務ニシテ他課ニ關係アルモノハ當該課長ニ、業務ニ關係アルモノハ當該主任ニ合議スヘシ

第二章 職員服務

- 第十二條 職員登校スルトキハ必ス出勤簿ニ捺印スヘシ
- 第十三條 職員病氣其他ノ事故ニ依リ缺勤スルトキハ其旨學校長ニ届出ツヘシ
- 但シ病氣缺勤一週日以上ニ涉ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ爾後二週日毎ニ又同シ

- 第十四條 一般執務時間ノ外職員執務時間ノ増減ハ其都度學校長之レヲ定ム
- 第十五條 職員出張ヲ命セラレタルトキハ其出發及歸着ノ月日ヲ學校長ニ届出ツヘシ
- 第十六條 職員研究調査ノ爲メ出張シタルトキハ歸着後七日以内ニ其事項ヲ學校長ニ復命スヘシ
特ニ大臣ヨリ命令書ノ交付アリタルトキハ學校長ヲ經テ大臣ニ復命スヘシ
- 第十七條 職員病氣又ハ事故ニ依リ遅刻シタル時ハ學校長ニ届出又早退セントスルトキハ學校長ノ許可ヲ受クヘシ
- 第十八條 職員住所ヲ移轉シ或ハ姓名印章ヲ變更シタルトキハ其都度届出ツヘシ
- 第十九條 職員病氣其他ノ事由ニ依リ居住地ヲ離レントスルトキハ學校長ノ許可ヲ受クヘシ
- 第二十條 職員官廳其他ヨリ本校ヲ經由セスシテ直ニ辭令ヲ受ケタルトキハ其事項ノ履歷上ニ關係アルモノハ其都度届出ツヘシ
- 第二十一條 宿直ハ判任官(助教授及課長タル書記ヲ除ク)以下職員ヲシテ輪番ニ之ヲ勤務セシム
- 第二十二條 宿直規程、校醫規程、傭人規程及參觀人心得ハ學校長別ニ之ヲ定ム

第三章 會 議

- 第二十三條 本校ニ教授會ヲ設ク
- 第二十四條 教授會ハ校務上重要ナル事項ニ關シ學校長ノ諮問ニ應シ之ヲ審議ス
- 第二十五條 教授會ハ教授ヲ以テ組織ス但シ學校長ニ於テ必要ト認ムルトキハ他ノ職員ヲシテ參列セシムルコトアルヘシ

- 第二十六條 學校長ハ教授會ヲ召集シ其議長トナル但シ學校長事故アルトキハ上席教授之ニ代ル
- 第二十七條 教授會ノ記録ハ庶務課ニ於テ之ヲ擔當ス

第四章 文書ノ處理

- 第二十八條 公文書ノ接受發送ハ庶務課ニ於テ之ヲ取扱フヘシ
- 第二十九條 庶務課ニ於テ公文書ヲ接受シタルトキハ課長之ヲ開封(親展書ヲ除ク)シ檢印ノ上主務ノ課長若クハ主任教官ニ配布スヘシ但シ重要ノ事件ト認ムル書類ハ學校長ノ閱覽ヲ受ケ夫々處理スヘシ
- 第三十條 課長若クハ主任教官ニ於テ前條ノ公文書ヲ受ケタルトキハ其處分案ヲ付シ他ニ關係アル事件ハ直ニ關係者ニ合議ノ上之ヲ庶務課ニ送付スヘシ
- 第三十一條 閱覽ニ止ムヘキ文書ハ其餘白ニ要旨ヲ記シ同覽ニ付スヘシ
- 第三十二條 處分ヲ要スル文書ト雖モ事ノ簡單ナルモノハ餘白ニ處分案ヲ記シ提出スヘシ
- 第三十三條 發議ヲ要スルモノハ案ヲ具シ庶務課ニ送付スヘシ
- 第三十四條 庶務課ニ於テ第三十條乃至第三十三條ノ公文書ヲ受ケタルトキハ學校長ノ決裁ヲ受ケ其處理ヲナスヘシ
- 第三十五條 公文書及物品ノ接受發送ハ其年月日件名等必要ノ事項ヲ帳簿ニ記入シ其交付ノ場合ニアリテハ受領者ノ認印ヲ徴スヘシ

- 第三十六條 職員名ヲ以テ發送スル公文書ニハ其封筒ニ官氏名ヲ記シ開封ノ儘庶務課ニ送付スヘシ
- 第三十七條 職員ノ進退、賞罰、學生生徒ノ賞罰及試験問題ハ機密事務トシテ之レヲ取扱フヘシ
- 第三十八條 公文書ハ完結ノ都度類別ニ依リ會計年度毎ニ之レヲ編綴シ其數回ノ往復ヲ重ネタルモノハ其顛末ヲ一括シテ編綴スヘシ但シ一事件ニシテ翌年度ニ連續スルモノハ完結ノ年ニ於テ編綴スヘシ
- 第三十九條 公文書ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ保存スヘシ
 - 一 永久保存 諸達其他ノ例規徵證ニ備フ可キモノ竝ニ報告材料及調査參考ニ供スヘキモノ
 - 二 七ヶ年保存 例規ニ依リ處分シタルモノ及質問應答書類
 - 三 一ヶ年保存 一時限リ處辨ニ屬スルモノ

二 成績考査規程

- 第一條 學業ノ成績ハ學期成績、學年成績及卒業成績ニ分チ平素ノ成績及試験成績ニ依リ之ヲ考査ス
- 第二條 試験ヲ分チテ學期試験及臨時試験トス但シ臨時試験ハ教官ノ必要ト認メタル場合ニ之ヲ行フ
- 第三條 學期試験ハ各學期末ニ於テ其學期間ニ履修シタル學科目ニ就キ之ヲ行フ
- 第四條 學科目中修身、體操及實習實驗ハ受持教官ノ見込ニ依リ其ノ一部分又ハ全部ノ試験ヲ省略シ平素ノ成績及出席狀態ニ基キ當該學科目ノ學期成績ヲ考査スルコトアルヘシ
- 第五條 各學科目ノ平素ノ成績ハ平素ノ學業動惰及臨時試験ノ成績ニ基キテ受持教官之ヲ定ム

- 第六條 各學科目ノ學期成績ハ學期試験成績、平素ノ成績及出席狀態ヲ參酌シテ受持教官之ヲ定ム
- 第七條 實習實驗ノ成績ハ養蠶學科ニ在リテハ養蠶實習、栽桑學科ニ在リテハ開場實習、製絲學科ニ在リテハ製絲實習ヲニ其ノ他ヲ一ニ評價シテ之ヲ定ム
- 第八條 學期成績ハ各學科目ノ學期成績ヲ平均シテ之ヲ定ム
- 第九條 各學科目ノ學年成績ハ學期成績ヲ平均シテ之ヲ定ム
- 第十條 學年成績ハ各學科目ノ學年成績ヲ平均シテ之ヲ定ム
- 第十一條 卒業成績ハ各學年成績ヲ平均シテ之ヲ定ム
- 第十二條 成績ハ點數ヲ以テ表示シ一百點ヲ以テ最高點トス
- 第十三條 點數ノ計算ハ小數一位ニ止メ小數二位ヲ四捨五入ス
- 第十四條 各學科目ノ成績六十點以上ヲ得タル者ハ該學年ノ課程ヲ修了シタルモノトス
- 第十五條 前條ニ合格セサルモ學年成績六十點以上ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ體操ノ成績六十點以上ノ者ニ限リ教官會議ヲ經テ其ノ學業成績ヲ審案シ特ニ該學年ノ課程ヲ終了シタルモノト認メ進級又ハ卒業セシムルコトアルヘシ
 - 一 各學科目中學年成績五十點以上六十點未滿ノ學科目數總學科目ノ三分ノ一又ハ三分ノ一以內ノモノ
 - 二 各學科目中學年成績四十點以上五十點未滿ノ學科目ハ一科目ニシテ且五十點以上六十點未滿ノ學科目二科目又ハ二科目以內ノモノ
- 第十六條 試験ニ缺席シタル學科目ノ學期成績ハ零點トス

但シ豫メ届出テ試験ニ缺席シバムヲ得サル事由アリト認メタル者ニ對シテハ其ノ學期成績ハ當該學年ニ於ケル前學期若クハ次學期ノ試験成績ノ二分ノ一ニ平素ノ成績及出席状態ヲ參酌シ見込點ヲ附スルコトアルヘシ

本校規則第三十七條ニ該當スル追試験ハ試験成績算定ノ基準ナキ場合ニ限り之ヲ行フ、此場合ニ於ケル學期成績ハ追試験成績ノ二分ノ一ニ平素ノ成績及出席状態ヲ參酌シテ決定スルモノトス

第十七條 一學期間ノ缺席日數授業日數ノ二分ノ一以上ニ互リタル者ハ學期試験ヲ受クコトヲ得ス

但シ本校規則第二十五條、第二十八條、第二十九條及本校ニ於テ已ムヲ得サルモノト認メタル場合ハ此ノ限りニアラス

三 授業料及實習實驗費ニ關スル細則

- 第一條 授業料ハ左ノ期間内ニ本校會計課ニ納付スヘシ
- 第一期 自四月十六日 至同月二十日
- 第二期 自九月十一日 至同月十五日
- 第三期 自一月十六日 至同月二十日
- 第二條 本校規則第五十一條各號ノ一ニ該當スルモノハ事項發生ノ日ヨリ五日以内ニ該期ノ授業料ヲ納付スヘシ
- 第三條 退學除名又ハ放校ノ場合ニ於テ其ノ學期ノ授業料未納ナルトキハ即時之ヲ徴收ス
- 第四條 實習實驗費ヲ徴收スルトキハ特ニ其ノ金額及納付期日ヲ告示ス

四 選科生細則

- 第一條 選科生ノ特修スヘキ學科目左ノ如シ
- 養蠶學科
- 修身、栽桑學、養蠶學、蠶種學、實驗遺傳學、蠶體解剖學及蠶體生理學、蠶體病理學、蠶體衛生學、栽桑實習、養蠶實習、蠶種製造實習、蠶種學實驗、蠶體解剖學及蠶體生理學實驗、蠶體病理學實驗
- 栽桑學科
- 修身、應用昆蟲學、植物病理學、地質學及土壤學、肥料學、栽桑學、桑樹種苗學、養蠶學、應用昆蟲學實驗、植物病理學實驗、圃場實習、養蠶實習
- 製絲學科
- 修身、製絲原料論、繭乾燥貯藏論、製絲用水論、煮繭論、繰絲論、生絲整理及検査論、野蠶繭及屑繭整理論、工場管理論、工場衛生論、生絲貿易論、製絲業經營學、製絲實習、工場實習、繭實驗、生絲實驗
- 前項ノ學科目ハ學校長ノ許可ヲ得テ之ヲ省略シ又ハ他ノ學科目ヲ加ヘ特修スルコトヲ得
- 第二條 選科生ニハ本人ノ願ニ依リ特修セル前條第一項所定ノ學科目ノ全部又ハ一部ニツキ試験ノ上成績良好ナル者ニハ全部又ハ一部ノ學科目ニ對スル修業證書ヲ授與スルコトアルヘシ
- 第三條 第二條ノ修業證書ヲ受ケ得サル學科目及第一條第二項ニ依リ聽講シタル學科目ニハ願ニ依リ該學科目ニ對ス

ル聽講證ヲ授與スルコトアルヘシ

五 外國人特別入學細則

- 第一條 文部省直轄諸學校外國人特別入學規程ニ依リ外國人ニシテ本校ニ於テ教授ヲ受ケントスルモノアルトキハ入學ヲ許可スルコトアルヘシ
- 第二條 前條ノ志願者ハ本校規則第二十條ニ定メタル入學願書履歷書ノ外修業學校長ノ證明書並ニ外務省在外公館又ハ本邦所在ノ外國公館或ハ監督署ノ紹介書ヲ添ヘ學校長ニ願出ツヘシ
- 第三條 志願者ノ學力ハ試驗ニ依リ之ヲ檢定ス
- 第四條 疾病其ノ他已ムヲ得サル事由ニ依リ休學又ハ退學セントスル者ハ入學出願ノ際紹介ヲ受ケタル官署ヲ經テ出願スヘシ
- 第五條 在學中成績良好ナル者ニハ修業證書ヲ授與ス
- 第六條 在學中品行方正成績優秀ニシテ本科卒業ト同等ノ學力アリト認ムル者ニハ證議ノ上特ニ卒業證書ヲ授與スルコトアルヘシ
- 第七條 本細則ニ定メナキモノハ總テ本校規則ヲ準用ス

六 學生、生徒心得

- 第一條 本校學生生徒ハ常ニ教育勅語及戊申詔書ノ御趣旨ヲ奉戴シテ立身報國ノ至誠ヲ致スヘシ
- 第二條 本校學生生徒ハ左ノ綱領ヲ遵守スヘシ
 - 一 校則ヲ嚴守シ教官ノ熏陶ニ恭順スヘシ
 - 二 自學自習ヲ旨トシ體育衛生ヲ重シ蠶絲學ノ進歩發達ノタメ精進スヘシ
 - 三 質實剛健豁達進取ノ氣象ヲ涵養スヘシ
 - 四 高尚ナル趣味圓滿ナル常識ノ涵養ニ努ムヘシ
 - 五 報恩ノ志ヲ尙ヒ責任ノ觀念ヲ厚ウスヘシ
 - 六 自恣放縱ヲ誠メ獨立自尊和衷協同ノ精神ヲ涵養スヘシ
 - 七 志操ヲ固クシ言行ヲ慎ミ公序良風ヲ素スヘカラス
- 第三條 本校學生生徒ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ
 - 一 始業時限ニハ遲滞ナク教場ニ入り授業終ル時ハ教官退出後靜ニ退場スヘシ
 - 二 授業ノ開始及終了ニ際シテハ一同教官ニ對シ立禮スヘシ
 - 三 授業時間中ニ教室ニ出入セントスルトキハ教官ノ許可ヲ受クヘシ
 - 四 校舎内ニアリテハ高聲ニ誦讀談笑シ又ハ疾走スル等總テ喧噪ノ行爲アルヘカラス
 - 五 校舎内ニアリテハ所定ノ場所以外ニ於テ飲食喫煙スヘカラス
 - 六 帽子外套傘及履物等ハ必ス所定ノ場所ニ整置スヘシ

- 七 本校ノ揭示ハ揭示ノ當日ヨリ一般ニ知了シタルモノト認ムルヲ以テ常ニ注意スヘシ
- 八 諸願届書ノ類ハ總テ學生課ヲ經テ學校長ニ差出スヘシ
- 九 登校中疾病又ハ事故ニ依リ缺席セントスルトキハ届出ツヘシ
- 十 本校ノ物品ハ當該物品監守者ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ使用シ若ハ帶出スルコトヲ得ス
- 十一 本校ノ物品ハ其取扱ヲ鄭重ニスヘシ若シ毀損又ハ紛失シタルトキハ直ニ届出テ指揮ヲ受クヘシ
- 十二 揭示ヲ爲サントスルトキハ豫メ學生課ニ申出テ許可ヲ受クヘシ
- 十三 校ノ内外ヲ問ハス學生生徒ノ會合ヲサントスルトキハ豫メ願出テ許可ヲ受クヘシ
- 十四 集會ノタメ校舎校具ヲ借用セントスルトキハ豫メ願出テ許可ヲ受クヘシ
- 十五 校ノ内外ヲ問ハス團體ヲ組織シ又ハ他ノ團體若ハ集會ニ參加セントスルトキハ豫メ願出テ許可ヲ受クヘシ
- 十六 校ノ内外ヲ問ハス印刷物若ハ之ニ類スルモノヲ配布又ハ貼附セントスルトキハ豫メ願出テ許可ヲ受クヘシ
- 十七 校ノ内外ヲ問ハス金品ヲ募集セントスルトキハ豫メ願出テ許可ヲ受クヘシ

七 學生、生徒服制

第一條 學生、生徒ノ服制左ノ如シ

學生

一 制 帽

地質 絨(黒)

帽章 金屬性、形狀圖ノ如シ(縦九分、横一寸二分、圓形及絲形ハ銀色其ノ他ハ金色)

鉢卷 黒無地

制式 圖ノ如シ

一 略

地質 麥稈

帽章 制帽ノ帽章ニ同シ

鉢卷 黒無地

制式 圖ノ如シ

一 制

地質 絨(黒又ハ紺)

鈕 金屬製金色(形狀圖ノ如シ)

襟章 左襟ニ養蠶學科ハS栽桑學科ハM製絲學科ハFノ金字ヲ附ス但選科生ハ襟章ヲ附セス

制式 圖ノ如シ

一 靴

靴 黒皮製

一 略

諸規程

諸規程

生徒徽章

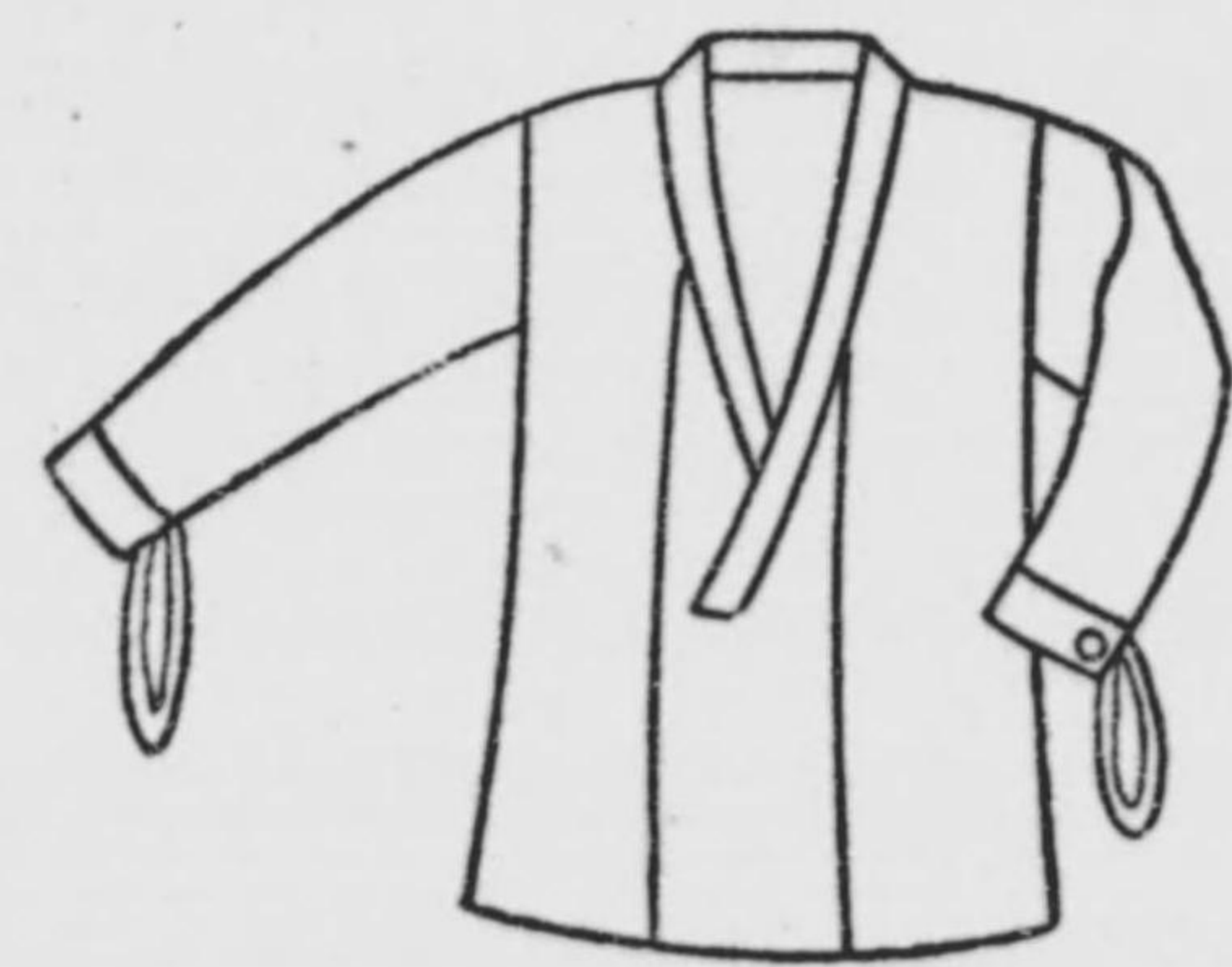


生徒制服袴



腰板ノ處白花リボンヲ附ス

生徒實習上衣



生徒實習袴



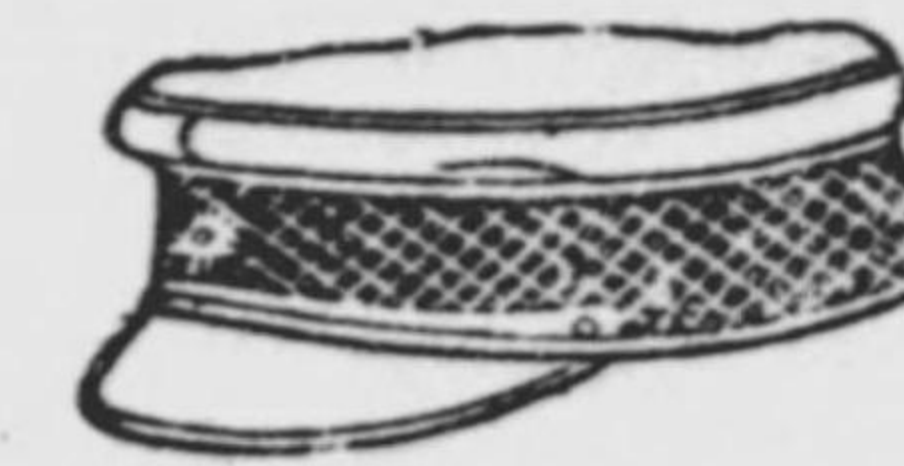
七五

諸規程

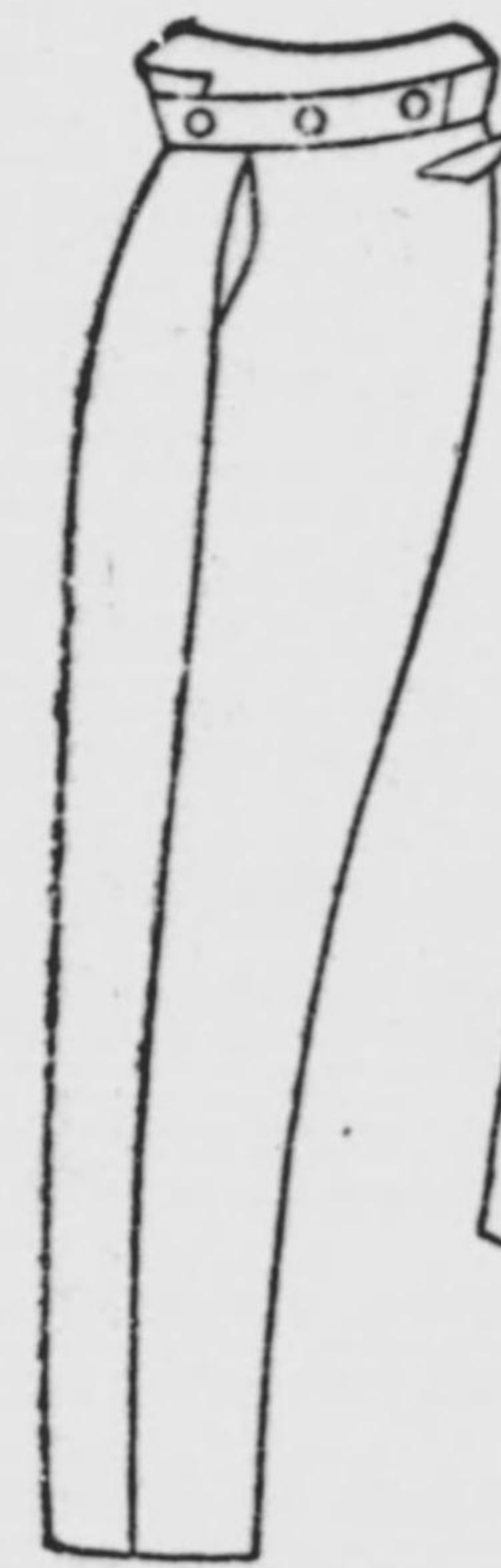
略帽



制服帽



制服袴



制服上衣前



帽章

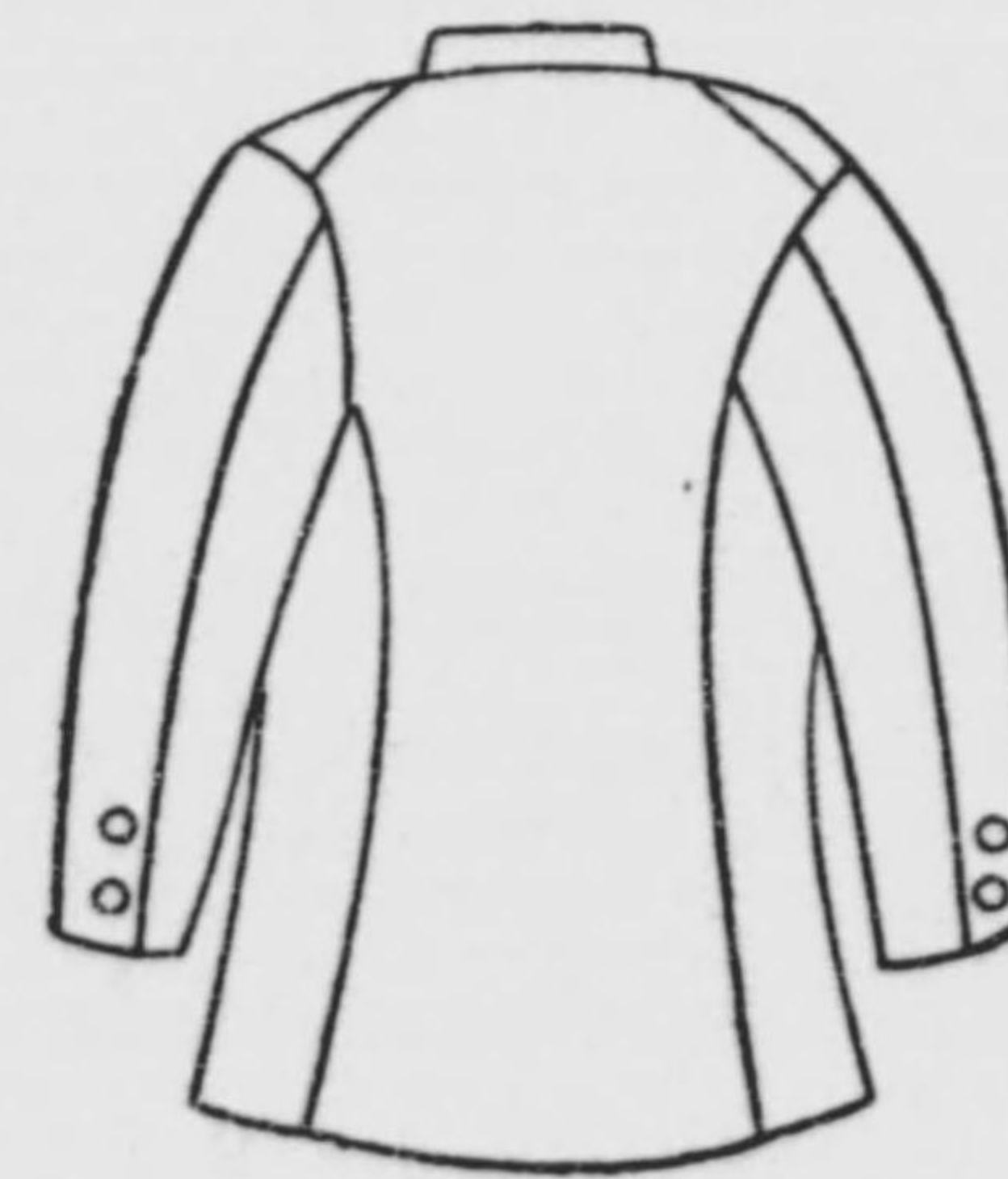


釦

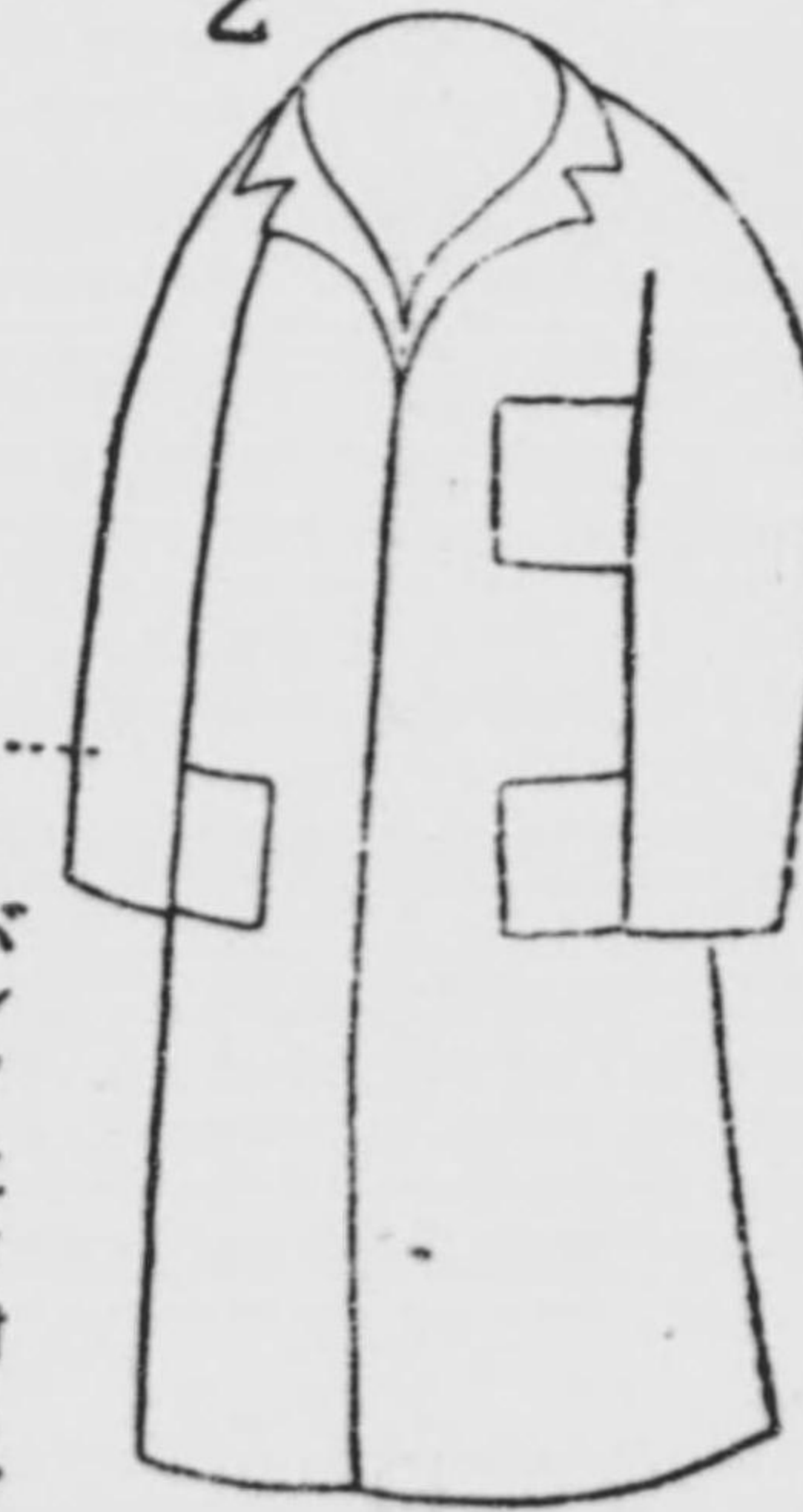


實習服乙

制服上衣背



バンド止ヲ附スルコト



七四

諸規程

七六

體操及實習ニハ甲ヲ、實驗ニハ乙ヲ用ユヘシ但製絲實習ニハ乙ヲ用ユヘシ

甲

地質 小倉(霜降)

制式 制服ニ同シ

乙

地質 カツラギ又ハキヤラコ(白)

制式 圖ノ如シ

生徒

養蠶實科

一 學生ニ同シ但シ襟章ヲPトス

製絲教婦科

一 制服

袴 毛絨子黒無地

制式 圖ノ如シ

襟章 金屬製、形狀圖ノ如シ(縦六分、横九分、齒形及絲形ハ銀色其ノ他ハ金色)

左胸ニ之ヲ附ス

一 略服 (實習用)

地質 キヤラコ(白)

制式 圖ノ如シ

第二條 學生生徒ノ服裝規程左ノ如シ

學生

一 本校ニ出入スルトキ、本校學生タルコトヲ表示スルトキ及特ニ本校ヨリ指定スルトキハ制帽制服ヲ着用スヘシ

但五月一日ヨリ九月三十日迄ハ特ニ指定シタル場合ノ外略帽ヲ着用スルコトヲ得

一 體操、實習及實驗ニハ略服ヲ着用スヘシ

但體操ニハ必ス卷脚絆編上靴圍場實習及栽桑實習ニハ脚絆足袋ヲ着用スヘシ

一 疾病其ノ他ノ事故ニ因リ制服ヲ着用シ難キトキハ豫メ届出ツヘシ

一 寄宿生ハ舍内ニ在リテハ和服ヲ着用スルコトヲ得

一 寄宿生通學生ヲ問ハス外出ノ場合ニ於テハ制帽、制服又ハ制帽及袴ヲ着用スヘシ

生徒

養蠶實科

一 學生ニ同シ

製絲教婦科

諸規程

七七

- 一 本校ニ出入スルトキ本校生徒タルコトヲ表示スルトキ及特ニ本校ヨリ指定スルトキハ制服ヲ着用スヘシ
- 一 授業中ハ略服ヲ着用スヘシ
- 一 寄宿舎内ニ在リテハ平服ヲ着用スルコトヲ得
- 一 外出ノ場合ニ於テハ制服ヲ着用スヘシ
- 第三條 新入ノ學生、生徒ハ入學後一ヶ月以内ニ限り制服ヲ着用セサルコトヲ得
- 第四條 研究生及短期講習生ノ制服ハ別ニ之ヲ定メス

八 校旗規程

- 第一條 校旗ハ本校ヲ表象ス
- 第二條 校旗ニ對シテハ常ニ敬虔ノ念ヲ持シ之ヲ尊重擁護スヘシ
- 第三條 校旗ノ敬禮ハ皇室竝ニ神前ニ限ルモノトス
- 第四條 校旗ノ出動ハ左ノ場合トス
 - 一 舉式ノトキ
 - 一 學校長ニ於テ特ニ必要ト認メタルトキ
- 第五條 校旗出動スル場合ハ旗手之ヲ捧持シ護衛者ヲ附ス但シ時宜ニヨリ護衛者ヲ附セサルコトアルヘシ
- 第六條 旗手ハ三名、護衛者ハ七名トシ學生生徒中ヨリ學校長之ヲ任命ス其任期ハ一學年間トス

第七條 校旗ハ庶務課長之ヲ保管ス

九 級長規程

- 第一條 各科各級ニ級長及副級長各一名ヲ置ク
- 第二條 級長ハ其ノ級學生生徒ヲ代表シ級ノ親和ヲ圖リ命令ノ傳達其ノ他ヲ掌ルモノトス
- 第三條 副級長ハ級長ヲ補佐シ級長事故アルトキハ之ヲ代理ス
- 第四條 級長及副級長ノ任期ハ一學年間トシ每學年ノ始メニ生徒主事臨席ノ上記名投票ニ依リ互選ス但シ入學當時ノ第一學期間ニ限り學校長之ヲ指名シ第二學期ノ始メニ於テ互選ス
- 第五條 級長又ハ副級長缺ケタルトキハ前條ニ準シテ直ニ之ヲ補フ
- 第六條 前條ノ選舉結了シタルトキハ生徒主事ヨリ其任命ヲ學校長ニ申請スヘシ學校長ハ證議ノ上之ヲ任命ス
- 第七條 學校長ハ級長又ハ副級長ニシテ其任ニ適セスト認メタルトキハ之ヲ免ス

一〇 修學旅行規程

- 第一條 本校教育ノ目的ヲ達スルタメ各學科第二學年ニ修學旅行ヲ課ス
- 第二條 修學旅行ノ時期及場所ハ學校長之ヲ定ム
- 第三條 學生ハ修學旅行中引率教官ノ指揮ニ從フヘシ

第四條 學生ハ修學旅行終了後二週間以内ニ各自其ノ報告ヲ教務課ニ提出スヘシ

第五條 學生ハ修學旅行費トシテ第一學年第一期ヨリ第二學年第一期ニ至ル四期間授業料納付ト同時ニ金六圓宛ヲ本校會計課ニ積立ツヘシ

第六條 學生ニシテ修學旅行ニ缺課セントスル者ノ中疾病ニ因ル者ハ學校醫ノ診斷書ヲ添ヘ家庭ノ事情ニ因ル者ハ保證人ノ連署ヲ以テ願出テ許可ヲ受クヘシ

第七條 修學旅行ニ缺課セル者ノ該旅行期間中ニ於ケル課業ハ學校長之ヲ定ム

第八條 修學旅行ニ缺課セル者ノ積立金ハ修學旅行終了後父兄宛ニ之ヲ還附ス

一一 寄宿料徴收規程

第一條 寄宿生ハ寄宿料ヲ納付スヘシ

第二條 寄宿料ハ第一寄宿舍ニアリテハ一學年金貳拾五圓第二寄宿舍ニアリテハ同金拾八圓トシ左記ノ三期ニ分チ授業料納付期ニ之ヲ徴收ス

區分	第一期 (自八月至四月)	第二期 (自九月至十二月)	第三期 (自一月至三月)
第一寄宿舍	金拾圓	金七圓	金七圓
第二寄宿舍	金七圓	金六圓	金五圓

右各期ノ半途ニ於テ入舍スル者又ハ本校ヨリ入退舍ヲ命セラレタル者ニ對シテハ一ヶ月第一期寄宿舍ニアリテハ金貳圓五拾錢第二期寄宿舍ニアリテハ金壹圓八拾錢ノ割合ヲ以テ徴收ス

但一ヶ月中在舍日數十六日ニ滿タサル者ハ月割ノ半額トス

第三條 寄宿料納付期限一週日間ヲ經過スルモ猶納入セサル者ハ退舍セシムルコトアルヘシ

第四條 寄宿料ハ一旦納付シタル後ハ何等ノ事由アリト雖モ之ヲ返付セス

一二 寄宿舍規程

綱領

- 一 自治協同ヲ旨トスルコト
- 一 質實剛健ヲ尙フコト
- 一 信義禮讓ヲ厚クスルコト
- 一 至誠勤勉ヲ分トスルコト
- 一 攝生清潔ヲ重ンスルコト

第一條 學生生徒ハ本校寄宿舍ニ寄宿スルモノトス但シ本校ノ都合ニ依リ通學ヲ命シ又ハ學生生徒ノ願ニ依リ通學ヲ許可スルコトアルヘシ

第二條 寄宿舍ハ毎年八月十五日ヨリ九月八日迄閉鎖ス

但シ必要ニヨリ閉鎖ノ期間ヲ變更スルコトアルヘシ

第三條 學生生徒ハ入舎ノ際保證人連署ノ在舎證書ヲ學生課ヲ經テ學校長ニ差出スヘシ

第四條 疾病其ノ他已ムヲ得サル事由ノ爲メ退舎セントスル者ハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人連署ヲ以テ願出許可ヲ受クヘシ

但シ疾病ニ因ルモノハ學校醫ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第五條 寄宿生ハ舎内規約ヲ定メ學校長ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 寄宿生ハ寄宿料徴收規程ニヨリ寄宿料ヲ納付スヘシ

第七條 寄宿生ハ食費ヲ所定ノ期日ニ賄方ニ支拂ヒ學生課ノ檢證ヲ受クヘシ

第八條 寄宿生ニシテ寄宿料又ハ食費ノ納付若クハ支拂ヲ怠ルトキハ情狀ニヨリ本校規則第三十四條ニ依リ懲戒ス

第九條 本規程以外ニ渉ル事項ハ別ニ規定セルモノノ外總テ生徒主事ノ指揮ニ從フヘシ

第十條 本規程施行ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

一三 寄 宿 舍 細 則

第一 編 制

第一條 寄宿舍ニハ互選ニヨリテ委員若干名ヲ置ク委員ノ任期ハ一學期間トス

委員ハ風紀、衛生、災害豫防、營繕等ニ注意シ炊事ヲ監督シ兼ネテ命令其ノ他ノ事項ヲ傳達スルコトヲ掌ル

第二條 委員ハ委員會ヲ組織シ寄宿舍ニ關スル重要ナル事項ノ立案ヲナシ之ヲ室代表會ニ諮リ生徒主事ノ承認ヲ經テ其ノ議決事項執行ノ責ニ任ス

第三條 委員會ニ委員長一名副委員長一名ヲ置ク

第四條 各室ニハ互選ニヨリ室代表正副各一名ヲ置ク室代表ノ任期ハ一學期間トス

室代表ハ室内整頓ノ責ニ任ス

第五條 室代表者ハ代表會ヲ組織シ寄宿舍ニ關スル重要ナル事項ヲ協議シ之ヲ委員ニ申告スルモノトス

第六條 各室人員ノ配當ハ委員會ニ於テ豫定シ生徒主事之ヲ定メ任意ニ轉室スルコトヲ得ス

第二 在 舍 心 得

第七條 人員檢査ハ生徒主事又ハ學生課員臨時ニ之ヲ行フコトアルヘシ

第八條 門限ハ午前七時ヨリ午後十時迄トス但シ時宜ニヨリ伸縮スルコトアルヘシ

第九條 門限外已ムヲ得サル事故アリテ外出セントスル者ハ願出許可ヲ受クヘシ

第十條 門限ニ遅レンシ者及外泊セシ者ハ其ノ事由ヲ詳記シ届出ツヘシ但シ外泊セシ者ハ保證人ノ連署ヲ要ス

第十一條 外泊旅行若クハ歸省セントスル者ハ其ノ事由、宿所及日數ヲ詳記シ保證人連署ノ上願出許可ヲ受クヘシ

第十二條 外泊旅行若クハ歸省ヨリ歸舎シタル者ハ即日室代表ノ連署ヲ得テ共旨届出ツヘシ

第十三條 疾病ノ徵候アル者ハ學生課ニ申出ツヘシ

第十四條 火災其他ノ事變アル場合ニハ學校職員ノ指揮ニ從ヒ機宜ノ行動ヲ執ルヘシ

一四 學生、生徒通學規程

- 第一條 學生生徒ニシテ通學セントスル者ハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人連署ヲ以テ願出ツヘシ
- 第二條 通學生ハ別記ノ書式ニ依リ其ノ宿所ヲ届出ツヘシ宿所變更ノ場合モ亦同シ
- 第三條 通學生ノ宿所ニシテ不適當ナリト認メタルトキハ轉宿セシム
- 第四條 通學生ニシテ歸省又ハ旅行等ヲ爲サントスルトキハ豫メ願出許可ヲ受クヘシ
- 第五條 通學生ノ宿所ハ生徒主事又ハ學生課員隨時之ヲ點檢スルコトアルヘシ

(式書)

		宿 所 届			宿 所 主 人			現 在 住 所		
年 月 日	右及御届候也	何 郡 何 村 何 番 地	何 氏 名	何 年 齡	何 職 業	何 郡 何 村 何 番 地	何 氏 名	何 年 齡	何 職 業	宿 所 主 人 何
學校長	何 某 殿	同	同	同	同	同	同	同	同	宿 所 主 人 何
保 證 人	氏 氏 氏	同	同	同	同	同	同	同	同	名 名 名
宿 所 主 人	氏 氏 氏	同	同	同	同	同	同	同	同	名 名 名
										何 學 科 何 學 年

一五 圖書取扱規程

- 第一條 本規程ニ於テ圖書ト稱スルハ書籍、小冊子、報告、定期刊行物、圖畫、圖幅及圖表ノ類ヲ謂フ
- 第二條 圖書ノ管守ハ圖書標本課長其責ニ任ス但シ貸與中ノ圖書ハ借覽者之カ監守ノ責ニ任ス
- 第三條 圖書標本課長ハ圖書ノ出納及整理ヲ爲スヘシ
- 第四條 圖書ハ左ノ二類ニ區別シテ之ヲ整理スヘシ
 - 一 備 品 (永久保存ノ必要アルモノ)
 - 二 消 耗 品 (一時限リ必要アルモノ及定期刊行物及重要記事ニシテ合綴ノ上備品トナスヘキモノ)
- 第五條 寄贈ノ圖書ハ一ヶ月毎ニ前條ノ二項ニ區別シ納入請求書ヲ製作シ物品會計官吏ヲ經テ受入ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第六條 消耗品中保存ノ必要アルモノハ物品會計官吏ニ引續キ備品ニ組替ノ請求ヲ爲スヘシ
- 第七條 消耗品中不用ニ屬スルモノハ翌年度二ヶ月以内ニ之ヲ物品會計官吏ニ返納ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第八條 圖書標本課長ハ前條ノ圖書整理ノ爲メ圖書管守簿、圖書類別簿、圖書貸與簿、委託及借入圖書管守簿及消耗圖書受拂簿ヲ設クヘシ
- 第九條 圖書標本課長ハ別ニ定ムルトコロノ圖書借覽規程ニヨリ圖書ノ貸出ヲ爲スヘシ
- 第十條 圖書ノ亡失毀損アルトキハ各責任者ハ直チニ其事實ヲ詳記シタル願末書ヲ調製シ物品會計官吏ヲ經テ學校長ニ申告スヘシ

一六 圖書借覽規程

- 第一條 圖書ヲ借覽スルコトヲ得ル者ハ本校職員學生生徒及學校長ノ許可ヲ得タル校外者ニ限ル但シ學生生徒ハ圖書
閱覽票ヲ携帶スヘシ圖書閱覽票ハ每學年ノ始メニ於テ圖書標本課ヨリ之ヲ交付ス
- 第二條 閱覽室ハ祝祭日日曜日及本校記念日ヲ除キ左ノ時間中ニ之ヲ開ク
平日ハ午前九時ヨリ午後五時迄
土曜日ハ午前九時ヨリ午後一時迄
但シ開閉ノ日及時間ハ隨時之ヲ變更スルコトアルヘシ
變更ノ際ハ豫メ之ヲ揭示ス
- 第三條 學生生徒圖書ヲ借覽セムトスルトキハ圖書閱覽票ヲ係員ニ提出シテ圖書借覽用紙ノ交付ヲ受ケ之ニ必要事項
ヲ記入 テ係員ニ提出スヘシ
- 第四條 教官其擔任學科目ノ研究上必要ナル圖書ヲ帶出セムトスルトキハ圖書標本課ニ備付ノ貸出簿ニ必要事項ヲ白
記シ捺印スヘシ教官以外ノ職員ノ校務上必要ナル圖書ノ帶出モ亦同シ
- 第五條 學生生徒ノ一時ニ借覽シ得ル圖書冊數ハ和漢洋書通算三冊以內トシ教職員ノ帶出圖書冊數ハ制限ナキモ借覽
期間ハ當該年度ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第六條 圖書ノ借覽ハ圖書整理ノ都合上一時之ヲ停止スルコトアルヘシ停止ノ際ハ豫メ之ヲ揭示ス

- 第七條 辭書叢書統計書報告書新聞並ニ新刊雜誌等閱覽室ニ常置スヘキ圖書ハ其帶出ヲ許サ、ルモノトス
- 第八條 借覽圖書ハ之ヲ轉貸スルコトヲ得ス
- 第九條 借覽圖書ヲ汚染毀損若ハ紛失シタル者ハ修理若ハ辦償スヘシ
- 第十條 借覽圖書ハ第二條ニ規定セル時間若ハ第五條ニ規定セル期間內ニ之ヲ返納スヘシ返納ノ時刻若ハ期日前ト雖
モ係員ヨリ請求アリタルトキハ直ニ返納スヘシ
- 第十一條 閱覽室ニアリテハ閱覽者心得ヲ遵守スヘシ
- 第十二條 第八條乃至第十一條ノ規定ニ違背シタル者ニ對シテハ六箇月以內圖書ノ借覽ヲ停止ス

職員

絹絲化學 上田 蠶絲專門學校教授
 土壤學 從四位勳一等農學博士農學士
 農蠶業經營學 從四位勳四等農學博士農學士
 絹絲物理學 東京工業大學教授
 絹乾燥貯藏論 從四位勳四等工學博士工學士
 蠶絲業史及法規 正五位勳六等
 捲絲及機械、絹絲紡績 正四位勳五等農學士
 英語 東京工業大學助教授
 蠶絲業政策及法規 從五位勳五等
 野蠶繭及府繭整理論 農林技師正五位勳五等農學士
 工場衛生論 從六位
 修身、教育學 內務省社會局技師
 殖民講話 從五位勳六等醫學博士醫學士
 精練及色染 東京高等師範學校教授
 修身 正六位勳六等
 養蠶學、蠶種論、製絲原料論、蠶種學實驗、養蠶實習、蠶種製造實習 正五位勳五等

井上 柳 梧 東京
 小林 房次郎 廣島
 加藤 知正 新潟
 棚橋 啓三 德島
 小松 豊作 長野
 本間 啓太郎 新潟
 太田 勤治 東京
 大岩 鑛 愛知
 永井 治良 茨城
 松田 昌徳 福岡
 鯉沼 荪吾 栃木
 橋本 重次郎 鳥取
 永田 稠 東京
 青木 良吉 愛知
 太田 哲三 長野
 坪井 啓作 静岡

製絲用水論
配屬將校
體操
書記

從四位勳四等子爵農學士 土御門 晴善 京都
 陸軍歩兵中佐正六位勳五等 服部 直臣 京都

庶務課長兼會計課長從七位勳八等 中野 信正 愛媛
 (兼)文部省圖書監兼官補兼文部屬 大森 音吉 東京

會計課勳八等 吉澤 俊治 東京
 (兼文部屬)勳八等 池田 傳治 秋田

教務課 三石 美衛 長野
 會計課 朝倉 小太郎 東京
 庶務課 濱田 佐五郎 新潟

圖書課本課 魚落 源治 東京
 會計課 天立 清 東京
 教務課勳七等 千賀 喬 茨城
 會計課 木下 勝美 長野

職員

職員

職員

副手

會計課	佐藤 要市
教務課	鈴木 龍
庶務課	堀井 三郎
教務課	山口 茂
會計課	相原 太郎
	岡山

九二

照沼市太郎	茨城
池田初二	三重
荒井貞作	埼玉
清水正雄	山梨
葛西文造	青森
角田喜久次	群馬
座間 獎一	神奈川
佐藤昌雄	東京
平澤 德衛	長野
藤田 勝	愛媛

職員

山崎覺之助	埼玉
中村春雄	東京
矢野常德	愛媛
力久正利	佐賀
小林光俊	佐賀
佐藤 義	千葉
藤澤秀雄	長野
大坪健二郎	福岡
平間 進	長崎
家原恒義	鳥根
原 敬司	神奈川
目黒宗治	東京
天野正雄	山梨
高橋亮太	山形
小野 茂	大分
山田輝彦	香川

九三

職員

製絲教婦

製絲副手

囑託

學校醫
修繕工事設計及監督
弓道師範
熊谷桑園業務補助
劍道師範

九四

島谷實廣島

宮澤一子長野

皆川タイ新潟

清水みつゐ長野

中島千里佐賀

杉本しづ東京

茅野やすゑ山梨

堂國ハマ鹿児島

笹原勝治山形

吹井健三郎新潟

大内義一茨城

岡部康之群馬

大島治喜太東京

陸軍二等軍醫從七位勳五等功五級

從七位

埼玉縣農林技師從六位

柔道師範

學生課事務囑託

圖書標本課事務囑託

自家用電氣工作物管理囑託

學生課事務囑託

學生課事務囑託

教務課事務囑託

勳八等

勳八等

三船久藏岩手

丸山三造熊本

橋爪秀太郎富山

阿部清馬山形

小田中久光長野

石本正三熊本

右田宮次郎三重

職員

九五

第八 學生、生徒

養蠶學科

第三學年生

井野駿吉	赤羽武夫	小島盛範	小暮惣次郎	金城順之	上村健一	影木孫一	荻野乾一	岡村孝雄	稻岡武雄	石塚清藏	石井公藏	五十嵐一雄	有間正三
京都	長野	鹿兒島	埼玉	沖繩	新潟	大分	新潟	山口	静岡	埼玉	神奈川	山形	福島

第二學年生

石川朋三	池邊克己	家久正	丹羽信厚	中西正喜	知念績幸	田上春來	田島彌太郎	關戸一正	瀬尾武文	杉浦紀二郎	十萬五良	重田毅	佐藤東次	小林英夫
東京	大分	愛媛	愛知	滋賀	沖繩	熊本	群馬	山梨	鳥取	埼玉	高知	神奈川	群馬	長野

內堀可通彦	上田光一郎	乾安衛	大和正次	山田光賢	山本義宣	山下孝滋	柳澤孝忠	谷田秋雄	森本喜代一	茂呂廣	松井四郎	細田與一	藤本房次郎	野崎芳朗
長野	東京	群馬	福岡	山形	熊本	大分	長野	熊本	和歌山	栃木	滋賀	埼玉	岐阜	兵庫

卜部茂龜知	岩本之晴	岩瀬照明	市川尙水	新井福壽	芦野道夫	赤羽善行	青崎祐男	住吉重喜	須田時彌	鷺坂晴美	佐藤正市	嵯峨正三	御所園紫郎	日下部壽夫	橋田豐平	喜多川明久	奧富五郎	荻原滿	大林薫
埼玉	福岡	愛知	長野	群馬	山形	長野	鹿兒島	鹿兒島	群馬	宮崎	福岡	岩手	福岡	埼玉	山梨	愛媛	埼玉	宮城	愛知

第一學年生

新堀正	古閑大	小林保	久米富男	河原塚圭治	川野富男	川邊盛康	川田武平	福室弘	福田浩夫	福田敬二	濱田成之	羽隅邦次郎	西垣睦夫	新倉明	成松千之	中島次郎	土井邦二	武田一郎	關規矩男
千葉	熊本	群馬	埼玉	埼玉	鹿兒島	鹿兒島	埼玉	静岡	兵庫	鹿兒島	茨城	山形	鳥取	神奈川	熊本	埼玉	高知	長野	千葉

休學	休學	熊谷憲治	山下武雄	諸星靜次郎	武者五三郎	水谷忠文	三木猛	松村武正	松岡幸太郎	細川安太郎	逸見玄吾
福岡	岩手	静岡	神奈川	神奈川	新潟	鳥取	廣島	群馬	群馬	富山	埼玉

內藤正典	圓井精三	土屋雪夫	玉木昇	高野昇	田口義雄	砂川昌三	杉浦三夫
東京	福岡	山形	鳥取	熊本	東京	埼玉	愛知

學生、生徒

中村 宏 東京
 長谷部 一 京都
 袴田 重一 静岡
 濱田 茂 東京
 福田 徳司 愛知
 福原 寅雄 静岡
 福江 治市 愛知
 牧江 治市 愛知

裁桑學科

第三學年生

秋保 盛男 宮城
 蒔祐 彦 千葉
 荒武 徹 鹿兒島
 安中 武夫 新潟
 加藤 喜三郎 愛媛
 片山 俱若 山口
 衣川 正夫 埼玉
 飯野 善治 栃木
 梅田 浩 熊本
 小澤 昇 福岡

第二學年生

小池 信次 山梨
 小林 信次 山梨
 近藤 宏 岩手
 佐々木 昌司 新潟
 高橋 昌三 東京
 中村 繁 埼玉
 永野 義鑑 埼玉
 小野塚 五郎 山形
 菅野 六郎 山形
 木村 清明 京都

初野 傳介 埼玉
 藤井 勉 兵庫
 古川 四郎 兵庫
 牧野 隆 長野
 南澤 吉三 群馬
 矢口 房之 群馬
 小川 康夫 長野
 佐藤 平夫 山形

九八

柳澤 博人 長野
 山下 俊男 長野
 吉田 定雄 静岡
 吉田 忠壽 神奈川
 米山 守人 長野

鈴木 孝 東京
 園部 繁 秋田
 田中 清助 佐賀
 竹村 廣太郎 京都

第一學年生

秋山 直 静岡
 井上 泰 岡山
 池本 眞純 山口
 石原 敬信 青森
 石村 義人 大分
 遠藤 四郎 福岡
 小野 宗茂 山形
 尾上千代 太郎 東京

製絲學科

第三學年生

伊東 一郎 神奈川
 石川 金次郎 埼玉
 岩瀬 重友 神奈川
 大村 善助 滋賀
 太田 修次 和歌山

龍野 和夫 滋野
 谷村 益也 福岡
 中村 四郎 福岡
 忽滑 谷喜作 埼玉

大久保 清 長野
 狩野 正二 群馬
 久保 寺恒夫 山梨
 桑名 祐司 福島
 佐々木 五郎 宮城
 須貝 圭壽 山形
 竹内 隆治 群馬
 塚越 正典 群馬

加納 康雄 東京
 風間 恒彦 新潟
 片野 吉壽 京都
 工藤 四郎 熊本
 菅藤 一 山形

野間 隆夫 廣島
 兵藤 憲三 栃木
 扶川 範雄 徳島

東海 俊之 富山
 中島 瑞穂 長野
 繩田 郁太郎 鳥取
 西躰 俊夫 京都
 平野 猛男 佐賀
 柳下 康雄 埼玉
 米田 康雄 京都

小泉 桂一 愛媛
 佐藤 正夫 熊本
 座間 祿助 神奈川
 齋藤 俊一 山形
 清水 秀雄 東京

九九

製絲學科選科

上條祐男	金子良雄	片山靜治	柿木英夫	加藤正一	岡野裕	越智滿	海智中	臼井胤	一瀬茂	石川德廣	石井正孝	荒澤三男	穴澤嘉夫	足立力雄	眞下謹次郎	松田正人	三谷他三次
東京	栃木	京都	石川	新潟	京都	愛媛	千葉	山口	長崎	山梨	長野	北海道	福島	鳥取	京都	兵庫	富山

藤原武夫	西岡民介	內藤作一	德田公雄	傳寶勇	手島幸孫	谷崎昌雄	竹內至平	高本義文	鈴木朝光	猿渡清	提橋忠太郎	佐藤格	古宮實	川崎袈裟己	宮澤正明	保見元一	山川滿一
京都	熊本	山梨	鹿兒島	京都	福岡	東京	千葉	廣島	神奈川	長崎	栃木	山形	東京	長野	神奈川	茨城	山梨

堀內典男	堀之內義	三谷幸弘	水谷幸光	守屋祐治	矢野孝夫	矢野正平	山下武二	山本清一郎	山脇光雄	橫田長達	橫地和中	堀內典男	堀之內義	三谷幸弘	水谷幸光	守屋祐治	矢野孝夫	矢野正平	山下武二	山本清一郎	山脇光雄	橫田長達	橫地和中						
長野	大分	鳥取	岐阜	宮城	山梨	岩手	新潟	埼玉	群馬	福岡	新潟	山梨	熊本	愛知	長野	大分	鳥取	岐阜	宮城	山梨	岩手	新潟	埼玉	群馬	福岡	新潟	山梨	熊本	愛知

第二學年

清水谷三郎	杉本一郎	杉山璋	清野正英	關中正平	田中茂	高木重次郎	竹村正夫	辻達郎	青山亨	池內良造	岩切有方	植村公夫	小口貫二	小澤健二	岡本信孝	加藤和夫	春日良作	神谷義雄
群馬	東京	群馬	福島	群馬	京都	山形	奈良	滋賀	岡山	鳥取	鹿兒島	三重	長野	長野	岡山	茨城	長野	神奈川

富田武雄	永井榮藏	永田憲	西川三郎	西村正郎	野村泰雄	廣瀬正人	福永鏡雄	古澤照平	河村一幹	鬼頭利男	栗坂榛生	木暮角三郎	坂本惣平	穴戶七郎	芝谷榮一郎	澁谷保雄	菅浦信男	菅原金太郎	鈴木正滿
大阪	神奈川	佐賀	三重	三重	茨城	大分	福岡	東京	東京	東京	岡山	群馬	高知	福岡	愛媛	新潟	滋賀	山形	山形

細田照兄	水野重真	村井信夫	由良信忠	吉成道藏	吉元要	四元昇	渡井昇	關大藏	副島大藏	高關俊一	竹內滿雄	茅野晟	戶田務	成見次男	長谷川達男	藤卷常雄	藤吉之男	逸見正夫	
長野	東京	東京	東京	兵庫	福岡	鹿兒島	靜岡	千賀	佐賀	東京	熊本	山梨	岩手	宮城	山形	山梨	岐阜	埼玉	埼玉

學生、生徒

小 平 次 雄
太 田 光 治
田 中 義 郎
程 野 宗 茂

三 谷 毅

養 蠶 實 科

五十子 喜久治
飯 島 典 雄
磯 部 敏 夫
岩 尾 是 高
岩 村 保 成
宇 都 道 成
小 田 切 健 治
大 須 賀 清
太 田 元 八
笠 原 英 康
川 上 肇 次 郎
川 浪 勇
木 下 實 男
木 村 勸 太 郎

東 京 東 京 山 梨 大 分 廣 島 鹿 兒 島 山 梨 靜 岡 群 馬 群 馬 新 潟 三 重 東 京 埼 玉

久 米 重 光
栗 原 勘 夫
小 柴 小 左 衛 門
小 山 堅 司
小 山 達 夫
甲 賀 正 治
佐 藤 一 三
清 水 新 太 郎
下 川 隆 雄
田 島 米 三
田 玉 吉 夫
瀧 澤 忠 次 郎
竹 林 正 二
中 吉 藤 則

埼 玉 群 馬 群 馬 三 重 長 野 神 奈 川 岩 手 長 野 岐 阜 群 馬 長 野 長 野 鹿 兒 島 宮 崎

片 倉 文 一
川 戶 才 八 郎
西 川 勝 太 郎
橫 山 董 一

仲 山 嘉 平
原 品 篤 雄
福 田 眞 清
藤 本 眞 樹
淵 上 眞 動
星 野 初 男
丸 山 正 次
三 室 榮 一
森 田 正 三
安 田 光 太 郎
山 本 進 一
和 田 吉 五 郎
脇 島 利 雄

兵 庫 山 梨 群 馬 大 分 福 岡 群 馬 埼 玉 崎 玉 群 馬 靜 岡 東 京 神 奈 川

製 絲 教 婦 科

第 二 學 年 生

會 澤 キ ヨ
青 山 み さ 於
上 田 久 子
片 岡 定 子
河 上 靜 枝
喜 友 名 マ ツ
小 池 は る よ
高 順 德
國 分 モ ト
佐 藤 キ ヨ
清 水 シ ナ

第 一 學 年 生

青 笹 シ ズ ヨ
石 合 文 子
稻 森 ツ ヤ
上 田 ハ ル エ
榎 澤 一 江
大 澤 サ イ
奧 田 も と

學 生、生 徒

茨 城 長 野 山 梨 廣 島 鳥 取 沖 繩 宮 城 朝 鮮 福 島 山 形 福 島

鈴 木 マ チ 子
田 中 ヤ イ
多 久 和 ヒ サ ノ
高 良 芳
竹 本 フ ク ヨ
橋 本 ハ ナ
付 田 ミ ド リ
弦 間 留 子
梅 美 智 子
島 居 す み 江
檜 垣 る

福 島 栃 木 鳥 取 廣 島 沖 繩 鳥 取 福 島 山 梨 山 梨 大 阪 靜 岡 千 葉

廣 瀨 鶴 子
藤 田 志 枝
藤 田 雪 美
藤 本 壽 美
古 屋 ナ 女
堀 田 ナ ヲ
増 田 子
松 岡 富 子
森 島 多 紀

山 梨 茨 城 鳥 取 三 重 山 梨 大 分 熊 本 熊 本 岐 阜

一〇三

韓 分 吉 吉 松 平 西
部 田 澤 石 野 島
常 フク ス 文 つ
子 ヨ ズ 子 京 る

山 梨 岐 阜 長 野 新 潟 長 野 長 野 中 華

一〇二

年	大正	八年	九年	十年	十一年	合計
養蠶科第一部	一	一				一八
養蠶科第二部						八
製絲科						一三二一
製絲教養成科						二
計						五五四三三二

年	明治	三十八年	三十九年	四十年	四十一年	四十二年	四十三年	四十四年	四十五年	四十六年	四十七年	合計
養蠶科第一部	一											一七
養蠶科第二部												八
製絲科												九一一
製絲教養成科												一
計												四三

以下朝鮮
トナル

年	明治	三十二年	三十三年	三十四年	三十五年	三十六年	三十七年	合計
清國蠶科								一一一
清國製絲科								一一一
清國製絲教養成科								一一一
計								一一一

年	大正	十二年	十三年	十四年	十五年	十六年	十七年	十八年	十九年	二十年	昭和	三年	四年	五年	合計	
養蠶科																四三
製絲科																一八
製絲學科																二六五二六
人																二二三三一二
員																八七五二六

第十一 附 錄

西ヶ原蠶友會會則

第一章 名稱及位置

第一條 本會ハ西ヶ原蠶友會ト稱シ東京高等蠶絲學校内ニ置ク

第二章 目的

第二條 本會ノ目的ハ會員相互ノ親睦ヲ圖リ心身ノ修養ニ力メ校風ヲ發揚シ以テ本校教育ノ資助ト爲スニ在リ

第三章 會員、名譽員及會友

第三條 會員ヲ分チテ通常會員及贊助會員ノ二種トシ本校學生及男生生徒ヲ通常會員ニ本校職員ヲ贊助會員ト爲ス

第四條 本會ニ名譽員ヲ置キ本會ニ功勞アル者ヲ推戴ス

第五條 本校出身者ヲ本會會友ト爲ス

第四章 事業

第六條 本會ノ目的ヲ達センカ爲左ノ十一部ヲ置キ其事業ヲ遂行シ尙毎年一回運動會ヲ開催ス

通常會員ハ運動ニ關スル一部以上ノ部員タルヲ要ス

庶務部	會計部
學藝部	劍道部
弓道部	柔道部
庭球部	陸上技競部
馬術部	角力部
射擊部	

第七條 各部ノ細則ハ其部ニ於テ運動會ニ關スル事項ハ其都度庶務部ニ於テ之ヲ定メ會長ノ承認ヲ受クルモノトス

第五章 役員

第八條 本會ノ事務ヲ處理スル爲左ノ役員ヲ置ク

會長	一名
副會長	一名
部長	十一名
幹事	五十六名

第九條 會長ハ本會ヲ總理シ副會長ハ會長ヲ補佐シ部長ハ會務ヲ分掌シ幹事ハ其ノ部ノ會務ニ從事ス

第十條 會長ハ本校校長ヲ推薦シ副會長ハ贊助會員中ヨリ推薦シ部長ハ贊助會員中ヨリ會長之ヲ囑託シ幹事ハ庶務部及學藝部ニ在リテハ各級ヨリ各部一名陸上競技部ニ在リテハ本科各學科ヨリ二名養蠶實科ヨリ一名劍道部弓道部柔道部庭球部馬術部角力部及射擊部ニ在リテハ通常會員中ヨリ各部四名ヲ互選シ會計部ニ在リテハ贊助會員中ヨリ一名會長之ヲ囑託ス

第十一條 部長及幹事ノ任期ハ一ケ年トシ毎年四月二十日ニ始リ翌年四月十九日ニ終ル

第六章 總會及役員會

第十二條 總會ハ毎年一回四月ニ之ヲ開キ會務及會計ノ報告ヲ爲ス

第十三條 役員會ハ臨時ニ之ヲ開キ豫算ノ編成其他重要ナル會務ヲ議定ス

第十四條 役員會ハ役員過半數ノ出席ヲ要ス

第十五條 役員會ニ於テハ會長之カ議長トナルモノトス

第七章 會 計

第十六條 本會會計年度ハ毎年二月一日ニ始リ翌年一月三十一日ニ終ル

第十七條 通常會員ハ會費トシテ毎年金拾圓ヲ左ノ三期ニ分チ納付スルモノトス但シ休學中ノ者ハ納付ヲ要セス

四 月 參圓五拾錢

九 月 參圓五拾錢
一 月 圓

第十八條 通常會員ハ入會ノ際第一期ノ會費ト共ニ入會金トシテ金壹圓ヲ納付スルモノトス

第十九條 贊助會員ハ會費トシテ毎月俸給若クハ手當ノ千分ノ八ヲ納付スルモノトス

第二十條 既納ノ入會金及會費ハ何等ノ事由ニ因ルモ之ヲ還付セス

第二十一條 本會ノ經常費ハ通常會員及贊助會員ノ會費並ニ基本金ノ利子ヲ以テ之ヲ支辨ス

第二十二條 歲計剩餘金ハ基本金ニ編入ス但シ役員會ノ決議ヲ經テ繰越金トナスコトヲ得

第二十三條 本會ニ基本金ヲ置キ左ノ讓出金及剩餘金ヲ以テ之ニ充ツ

- 一、通常會員ノ入會金
- 二、寄附金（費途ヲ指定シタルモノハ此ノ限ニアラス）
- 三、歲計剩餘金

第二十四條 基本金ハ役員會ノ決議ヲ經ルニアラサレハ之ヲ支出スルコトヲ得ス

附 則

第二十五條 本則ハ役員會ノ決議ヲ經ルニアラサレハ之ヲ改正スルコトヲ得ス

西ヶ原女子蠶友會々則

第一條 本會ハ西ヶ原女子蠶友會ト稱シ東京高等蠶絲學校内ニ置ク

第二條 本會ノ目的ハ會員ノ親睦ヲ圖リ智識ヲ交換シ以テ心身ノ修養ニ資スルニアリ

第三條 本會ハ左ノ會員ヲ以テ組織ス

- 一、通常會員……本校製絲教婦科生徒
- 一、特別會員……本校女子出身者
- 一、贊助會員……本校職員

第四條 本會ニ名譽會員ヲ置キ本會ニ功勞アル者ヲ推戴ス

第五條 本會ノ目的ヲ達センカ爲メ左ノ三部ヲ置ク

- 一、庶務部
- 一、會計部
- 一、學藝部

第六條 庶務部ニ於テハ會員ノ入退會會印及會長印ノ保管文章ノ接受及發送總會及會議等ノ開催並ニ他部ニ屬セサル一切ノ事務ヲ管掌ス

會計部ニ於テハ本會ニ關スル一切ノ會計事務ヲ管掌ス

第七條 本會ノ事務ヲ處理スル爲メ左ノ役員ヲ置ク

會 長	一 名
副 會 長	一 名
幹 事	三 名
委 員	六 名

第八條 會長ハ本會ヲ代表シ會務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ其ノ部ノ事務ヲ處理ス

委員ハ幹事ノ指揮ヲ承ケ其ノ部ノ分擔事務ニ従事ス

第九條 會長ハ本校々長ヲ推戴ス

副會長ハ本校職員中ヨリ推戴ス

幹事ハ本校職員中ヨリ會長之ヲ囑託ス

委員ハ各級ヨリ三名之ヲ互選ス

第十條 幹事及委員ノ任期ハ一ケ年トシ毎年四月二十日ニ始リ翌年四月十九日ニ終ル

第十一條 總會ハ毎年四月ニ之ヲ開キ會務及會計ノ報告ヲナスモノトス

第十二條 役員會ハ隨時之ヲ開キ左ノ事項ヲ評決スルモノトス

- 一、豫算ノ編成
- 一、本會々則ノ改正
- 一、其他ノ重要ナル事項

第十三條 本會々計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ルモノトス

第十四條 通常會員ハ會費トシテ毎月金四拾錢ヲ其月五日マテニ納付スルモノトス〔但休學中ノ者ハ納付ヲ要セス〕

第十五條 特別會員ノ會費ハ金參圓トシ一時ニ之ヲ納付スルモノトス

第十六條 通常會員ハ在學中特別會員ノ會費トシテ左ノ六回ニ分チ金五拾錢ツ、ヲ納付スルモノトス

第一學年	四月	九月	一月
第二學年	四月	九月	一月

第十七條 贊助會員ハ應分ノ釐出金ヲナスモノトス

第十八條 既納ノ會費ハ如何ナル事情アルモ之ヲ還付セス

第十九條 本會ノ經常費ハ通常會員ノ會費贊助會員ノ釐出金並ニ基本金ノ利子ヲ以テ之ヲ支辨ス

第二十條 經常費ノ剩餘金ハ基本金ニ編入ス但役員會ノ決議ヲ經テ繰越金トナスコトヲ得

第二十一條 本會ニ基本金ヲ置キ左ノ釐出金及剩餘金ヲ以テ之ニ充ツ

- 一、特別會員ノ會費

二、有志者ノ寄附金費途ヲ指定シタルモノハ此ノ限リニアラス

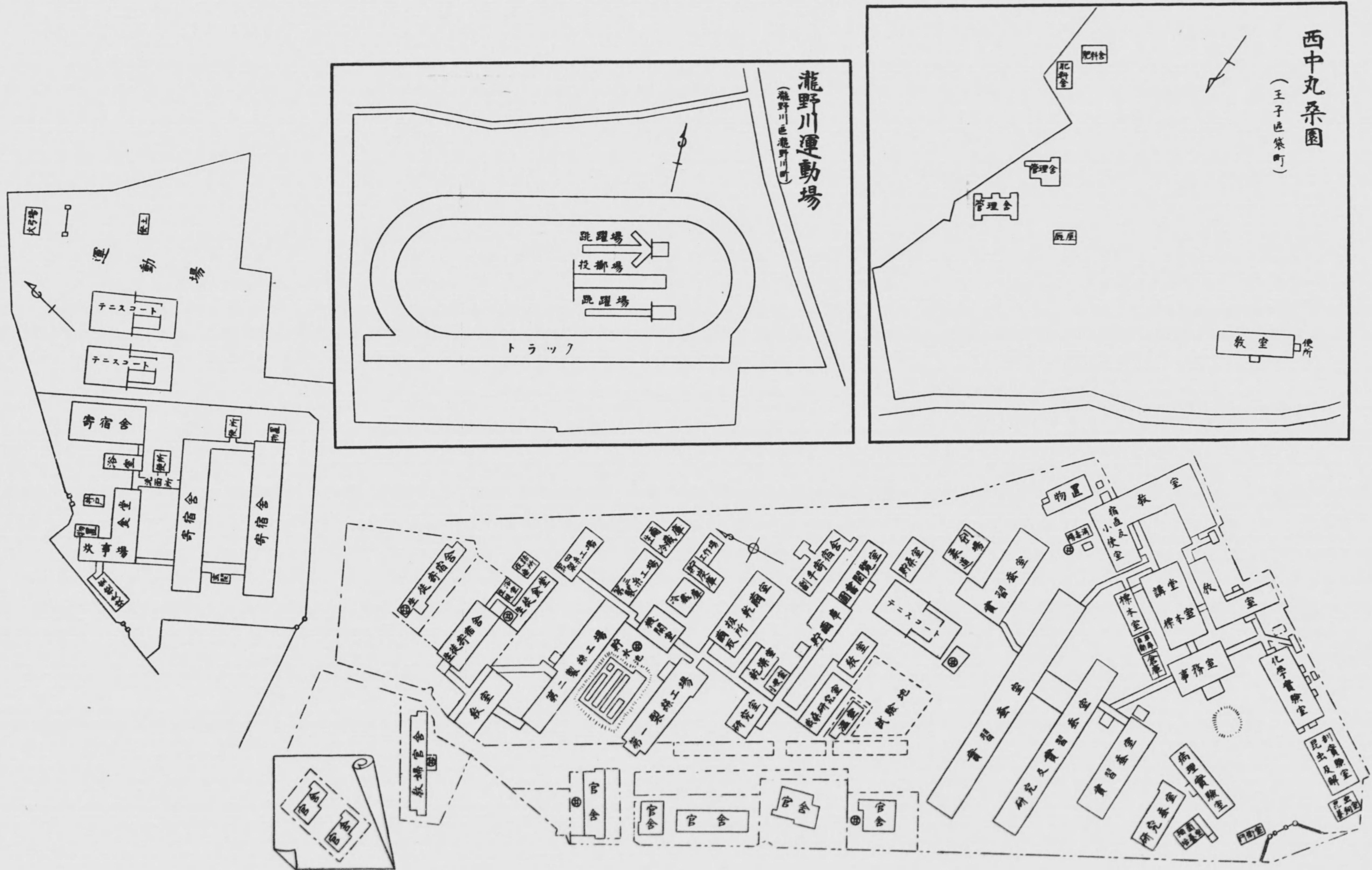
- 三、經常費ノ剩餘金

第二十二條 基本金ヲ支出セントスルトキハ役員會ノ決議ヲ經ルヲ要ス

第二十三條 本會々員ニシテ其ノ本分ニ背キ義務ヲ盡サ、ル者ハ役員會ノ決議ニヨリ除名ス

圖略物建及地敷校學絲蠶等高京東

一ノ分百二千尺縮



昭和八年七月十日印刷

昭和八年七月十三日發行

東京市澁野川區西ヶ原町

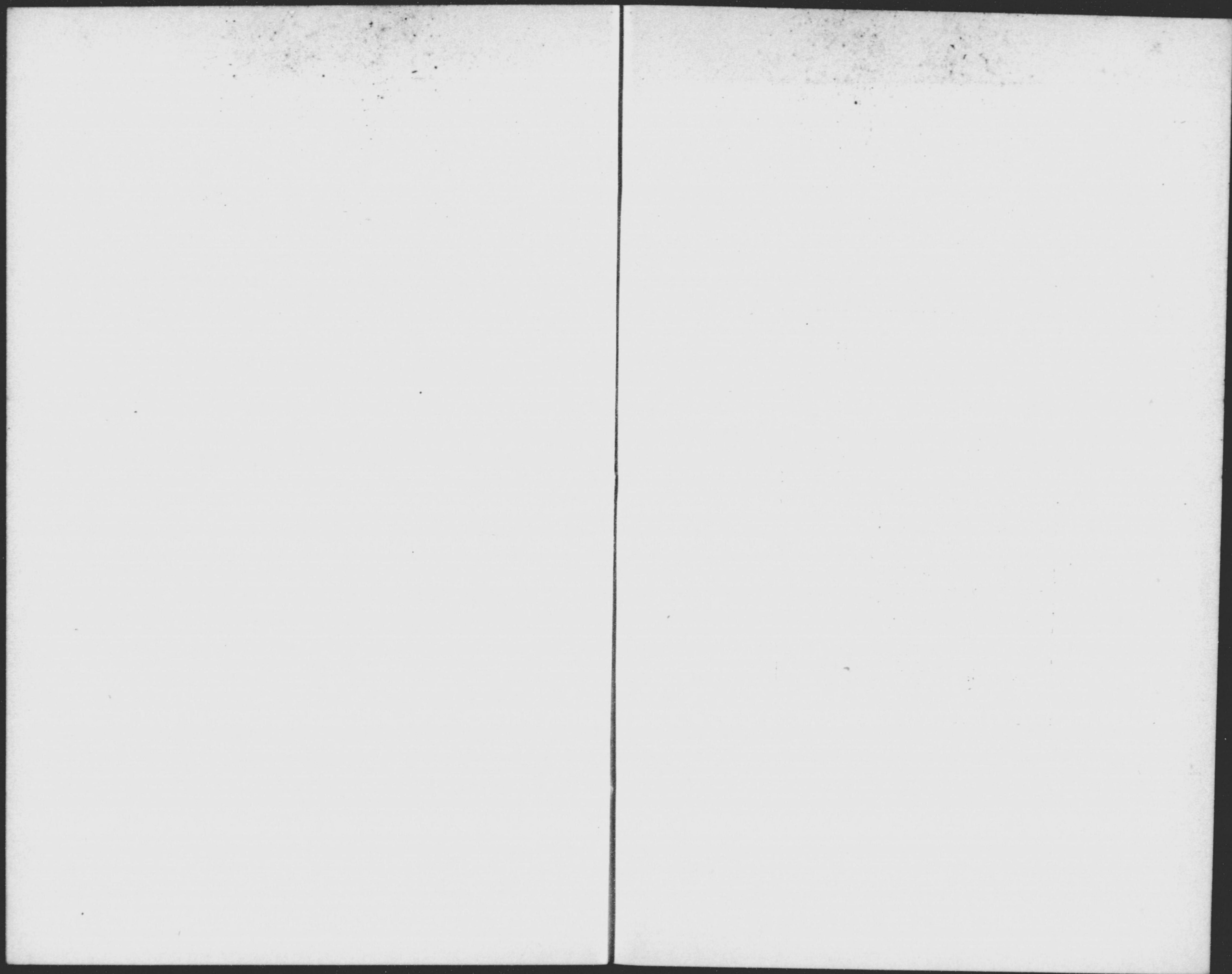
東京高等蠶絲學校

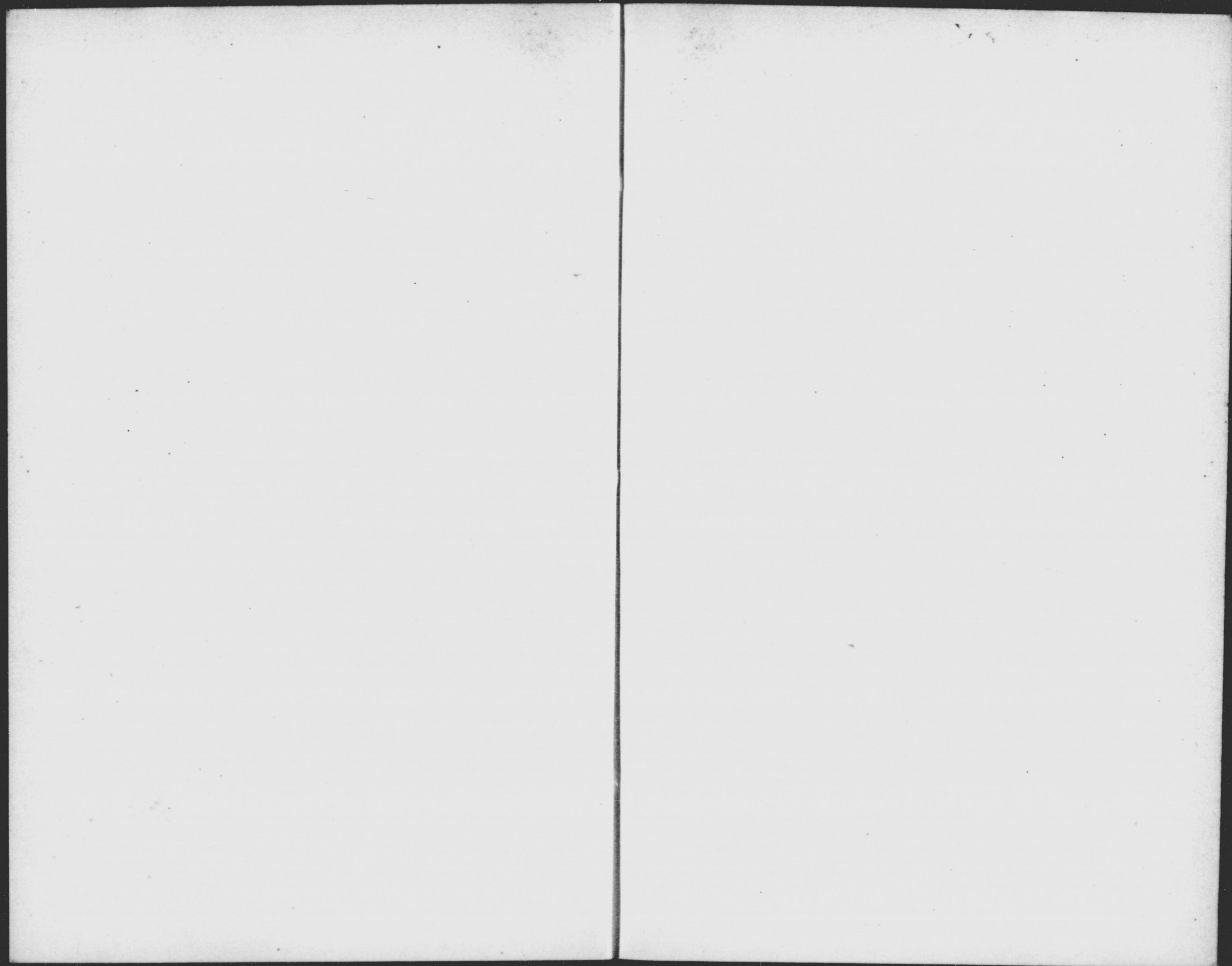
電話小石川一五八八番

東京市京橋區湊町三ノ二

印刷人 白柳喜康

印刷所 三豐社





291.5
4

